授業計画（シラバス）

科目名	心理学		指導担当者名	吉田　寿晃
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学生	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	人間科学のおける心理学とは？ 心理学の導入として基礎心理学を広く浅く扱う。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	心理学　第3版　　東京大学出版会			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	心理学とは	心理学の歴史と研究法
	2	心の進化・心の発達	動物としての人間と多動物との違い
	3	ライフサイクル	一生発達する人間心理
	4	動機づけと情動	動機付け、情動とは
	5	性格	その人らしさ、性格とは
	6	知能	頭が良いとはどういうことか
	7	ストレスとメンタルヘルス	ストレスとは・こころの健康を保つには
	8	カウンセリングと心理療法	心理援助と援助方法
	9	感覚	こころの窓となる感覚について
	10	知覚・記憶	見えた世界をどのようにして作り上げるか
	11	学習・思考	行動における学習とは何か・考えること、思考について
	12	脳と心	脳と心の関係
	13	脳損傷と心の動き	脳と心はどのように結びついているのか症例に学ぶ
	14	社会のなかの人・心と社会	集団社会の中の自分・集団心理学における協調と信頼について
	15	テスト	筆記試験
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	芸術(音楽)		指導担当者名	齋藤　由香
実務経験	音楽療法士		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学生	言語聴覚士科	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	色々な音を五感でかんじる。 場に合った音楽の使い方を学ぶ。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と授業内の実技を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	無し			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	音楽療法について 音と心と体について（音を感じて色で表現）	画用紙・クレヨン
	2	音の仕組み	音楽の歴史・癒しの音楽について。ベル
	3	音楽を体で表現する	手話・ダンス
	4	子供に対する音楽療法①	子供の障害について
	5	子供に対する音楽療法②	子供の曲について
	6	音を作る	楽器を作る
	7	オノマトペ	言語表現
	8	音による表現①	言葉と音を使い表現
	9	音による表現②	発表
	10	高齢者に対する音楽療法①	症例など
	11	高齢者に対する音楽療法②	時代背景・年代別の歌
	12	和の楽器で表現①	日本の民謡や音の仕組みについて
	13	和の楽器で表現②	和太鼓のリズム練習
	14	和の楽器で表現③	和太鼓・発表
	15	まとめ	全体のまとめ
	16		

履修上の留意点

・季節の歌、年代ごとの色々な曲を覚える
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国語		指導担当者名	寺内　義貴
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学生	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	・臨床実習等の課題となるレポートをまとめる力を養うことを目的とし、論説文の読解や作文の作成をを通して基本的な国語力を培う。 ・口語文法の復習を通して、国家試験の出題内容である言語学の基礎的な内容を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と調べ学習（レポート作成・提出）を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	担当教員作成の資料による			
授業外学習の方法	期末試験にむけて、復習を中心に学習を進めること。また作文課題については、期限を守り、必ず提出すること。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	文章読解①　作文① 口語文法の基礎①文節分け、単語	・論説文の読解と要約　・作文を書く際の構成の作り方 ・文節分けと文の成分の見分け、単語の種類の理解を深める
	2	文章読解② 口語文法の基礎②名詞・代名詞	・論説文の読解と要約 ・名詞・代名詞の理解
	3	文章読解③　作文② 口語文法の基礎③動詞・形容詞・形容動詞	・論説文の読解　・原稿用紙の使い方の理解 ・用言の活用、特に動詞の活用の種類、語幹に関する理解
	4	文章読解④ 口語文法の基礎④副詞・連体詞・接続詞	・論説文の読解と要約 ・副詞と連体詞の働きと見分け、接続詞の働きの理解
	5	文章読解⑤　作文③ 口語文法の基礎⑤助詞	・論説文の読解　・作文のフィードバック ・助詞の働き、特に格助詞と副助詞の違いの理解
	6	文章読解⑥ 口語文法の基礎⑥助動詞	・論説文の読解 ・助詞の働き、特に完了の助動詞「た」の用法の理解
	7	文章読解⑦　作文④ 口語文法の基礎⑦問題練習	・論説文の読解　・作文のフィードバック ・国家試験過去問を解く
	8	文章読解⑧ 口語文法の基礎⑧問題練習とまとめ	・論説文の読解 ・口語文法のまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	教育学		指導担当者名	遠藤　さとみ	
実務経験	公立小学校元学校長			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科	言語聴覚士科1年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
単位数	2単位	週時間数	2時間		
学習到達目標	・教育の概念と目的について理解する。 ・学習指導の原理と方法について理解する。 ・障害の種別と特徴および学校教育現場における支援の概要を知り、言語聴覚士としての基礎的素養を身に付けることができる。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）				
使用教材	指導者自作資料・指導者所有DVD(「聴覚障害児教育の専門性を身に付けるための指導者用教材」)				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	「教育学」を学ぶ意義	教育学とはどんな学問か
	2	学ぶことと教えること	人にとってなぜ教育は大切か、教育の法的位置づけ
	3	人の発達を理解する	人の発達段階と特徴
	4	学習の原理を理解する	知識・技能・態度はどのように習得されるか
	5	指導の基本を理解する（1）	良い指導者の条件
	6	指導の基本を理解する（2）	通常学級における授業展開の基本
	7	指導の基本を理解する（3）	通常学級における授業と個への配慮
	8	指導の基本を理解する（4）	＜演習＞通常学級における授業案づくり①
	9	指導の基本を理解する（5）	＜演習＞通常学級における授業案づくり②
	10	指導の基本を理解する（6）	指導案発表と意見交流
	11	障害に配慮した教育（1）	障害の種別と特徴
	12	障害に配慮した教育（2）	特別支援教育の歴史
	13	障害に配慮した教育（3）	聴覚障害児教育の基礎知識
	14	障害に配慮した教育（4）	教育現場での工夫・配慮事項
	15	言語聴覚士と教育	言語聴覚士に期待されること
	16		

履修上の留意点

・思考力・表現力育成の観点から、毎時間「書く活動」や「話し合う活動」を多く取り入れます。積極的に取り組むこと。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	社会学	指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師	実務経験：	無

開講時期	通年	対象学科学年	言語聴覚士科1年

授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：

単位数	2単位	週時間数	2時間

学習目標	言語聴覚士には専門的知識・技術はもちろん、加えて「社会力」や「人間力」の体得が必要とされる。本講義では日本社会全体の構造や変動とのかかわりの中で、諸個人の生活や価値志向性の諸相を把握し、言語聴覚士に必要な価値・態度様式の形成を期している。諸能力の形成の方法として、医療・福祉に関連する映画等を視聴することとし、意見・感想を学生に求める。
評価方法	レポートと2回程度の小テストの結果を加味して評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）
使用教材	配布プリント、DVD(ブラックジャックによろしく・たったひとつのたからもの)
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　通年	1	社会学論	定義・基本課題・研究対象と方法・学習意義
	2	ジェンダー論	戦前社旗における性差別・戦後の「高度経済成長期」の変化・女性の「社会進出」と「女性の時代」の到来
	3	ジェンダー論	
	4	家族論	家族の定義・戦前家族の諸特徴、「高度経済成長期」を契機とする「近代家族」の形成、現代の共働き家族の生活と家族問題、新しい家族創出への課題
	5	家族論	
	6	家族論	
	7	労働と日本的企業社会論	人間にとっての労働の本質的意義、現実の労働の歴史的発展過程、日本的企業社会の構造と問題
	8	労働と日本的企業社会論	
	9	農村社会論	戦前の村落共同体と農民生活、戦後農業政策の発展と農民層の経営と生活、農村社会の変動と農村再生の方向
	10	農村社会論	
	11	都市社会論	都市の定義と類型、戦前都市の構造と問題、工業化・都市化政策の展開過程、都市型社会への全面的展開、東京1極集中と都市問題、都市的人間の生活と価値志向
	12	都市社会論	
	13	都市社会論	
	14	高齢化社会論	高齢化社会の形成と要因、少子化問題の諸相、要介護高齢者家族の生活実態、高齢者福祉政策の展開、介護保険制度の問題点、高齢者福祉のモデル＝スエーデンの場合
	15	高齢化社会論	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	職業倫理学		指導担当者名	吉田　寿晃
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科3年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	「仕事・職業」に関する考えから、STを目指すことの自分を振り返り、今後の勉強の糧とする。具体的には①職業倫理と倫理綱領②リスクマネジメント③臨床業務の進め方④関連職種間連携⑤言語聴覚療法の法的基盤を中心に学ぶ。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、課題レポートの評価を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	「標準言語聴覚障害学言語聴覚障害学概論」医学書院 「改訂言語聴覚障害総論Ⅰ」建帛社			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	言語聴覚士と倫理	関連職種の倫理綱領
	2	医療安全管理とリスクマネジメント	リスクマネジメントの実際
	3	リハビリ部門における安全管理その1	病期別のリスク管理
	4	リハビリ部門における安全管理その2	疾患別・病態別のリスク管理
	5	関連職種連携その1	言語聴覚士の臨床業務と他職種連携
	6	関連職種連携その2	言語聴覚士の臨床業務と他職種連携
	7	言語聴覚療法と法的基盤	言語聴覚士の臨床業務と法律
	8	まとめ/テスト	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	生物学		指導担当者名	室井　由美子
実務経験	アメリカナショナル大学解剖生理学元講師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	解剖・生理学で学んだ知識をもとに生物の発生の機序と営みを知り、環境に応じてどのように変化していくかを学び理解する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に小テスト（2回）の結果を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	好きになる生物学　吉田邦久著　講談社			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	生命の起源	生命の誕生　多様性　進化
	2	細胞 i	種類　有糸分裂
	3	細胞 ii	原核細胞と真核細胞　ミトコンドリア
	4	体の構成成分	炭水化物　脂肪　タンパク質　酵素の作用
	5	ATP	ATP産生の機序 （復習）
	6	情報伝達 i	視神経伝達と聴覚神経伝達　反射による筋紡錘の作用
	7	情報伝達 ii	自律神経（復習）　体温調節の機序
	8	小試験	小試験 Ⅰ　ホルモン （正・負のフィードバック）
	9	免疫	抗体の構造　血液型の判定
	10	性と生殖	生殖細胞　受精　減数分裂
	11	発生	胚葉の分化
	12	再生医療	ES細胞　iPS細胞　クローン
	13	遺伝の仕組み	優性・劣性の法則　分離に法則　染色体と遺伝子
	14	遺伝子の変化	遺伝子突然変異　遺伝子組み換え
	15	小試験	小試験Ⅱ　定期試験の為の復習
	16		

履修上の留意点

・解剖・生理学で学んだ内容を復習・確認しながら勉強を進めること。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	統計学		指導担当者名	寺内　義貴
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	統計の基本事項の理解とデータの処理方法を学習する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、レポートの評価および出席状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	配布プリント・問題			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	平均値と分散	ガイダンス
	2	正規分布	分布表の使い方
	3	標準正規分布	標準正規分布と一般正規分布の違い
	4	分散の計算式と意味	標準平均の分布
	5	二項分布	順列と組合せ
	6	二項分布	Excel使用
	7	相関関係と共分散	散布図
	8	回帰直線	Excelを使用
	9	計算	二項分布の正規分布による計算
	10	中間テスト	
	11	t分布	t分布について
	12	t分布	表の利用と応用
	13	x^2分布について	x^2分布について
	14	まとめ1	
	15	まとめ2	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	情報処理		指導担当者名	古川　美恵子
実務経験	日本語文書処理技能検定1級		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	Word文書処理技能認定試験3級合格 Excel表計算処理技能認定試験3級合格			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、提出課題、検定結果および努力性を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	WARD2010クイックマスター・EXCEL2010クイックマスター			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	Wordの基本	文字入力と編集・画面構成と画面の操作
	2	文書の編集①	書式設定
	3	文書の編集②	罫線と網掛け
	4	文書の印刷	ヘッダーとフッターの設定・印刷の実行
	5	文書作成①	入力オートフォーマット・タブ設定
	6	文書作成②	ビジネス文書の書式設定
	7	表作成①	表の編集
	8	表作成②	表の装飾
	9	図形と画像	図形を伴う文書作成・オブジェクト作成
	10	問題集①	練習問題
	11	問題集②	練習問題
	12	問題集③	サンプル問題
	13	問題集④	模擬問題
	14	問題集⑤	模擬テスト
	15	前期末テスト	

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	情報処理		指導担当者名	古川　美恵子
実務経験	日本語文書処理技能検定1級		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	Word文書処理技能認定試験3級合格 Excel表計算処理技能認定試験3級合格			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、提出課題、検定結果および努力性を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	WARD2010クイックマスター・EXCEL2010クイックマスター			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	Excelの基本	Excelの画像操作とデータ編集
	17	表の編集①	罫線の設定
	18	表の編集②	セルの書式設定・表示形式の設定・行・列の編集
	19	ブックの印刷	表示モードの切り替え・ページ設定の編集・印刷
	20	グラフと図形の作成①	表から図形への編集
	21	グラフと図形の作成②	様々な図形への編集
	22	ブックの利用と管理	ワークシートの管理・ウィンドウの操作
	23	関数①	数学・三角関数
	24	関数②	論理関数・日付関数・その他の関数
	25	データベース機能	リストの作成・並べ替え・抽出
	26	問題集①	練習問題
	27	問題集②	練習問題
	28	問題集③	サンプル問題
	29	問題集④	模擬テスト
	30	期末テスト	模擬テスト
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	英語		指導担当者名	室井　由美子
実務経験	アメリカナショナル大学解剖生理学元講師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	人体の構造や働きを英語で知り、特に言語聴覚士として必要なリハビリテーション用語を習得する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に小テスト（2回）の結果を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	リハビリテーションの基礎英語　　医療技術者のための医学英語入門			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	Plane and Direction（断面と方向）	断面・方向の英語表現
	2	Range of Motion（ROM）可動域	復習　可動域用語を英語で覚える
	3	The Human Body 人体	復習　主な構造を英語で覚える （医学英語入門）
	4	Cervical muscle（頸部の筋肉）	復習　主な頸部の筋肉を英語で覚える
	5	Nervous System（神経系）	復習　中枢・末梢・自律・交感・副交感神経を英語で覚える
	6	前半総復習	復習問題
	7	小試験	1～6週までの小試験
	8	脳の知覚分野	各分野を英語で覚える　（医学英語入門）
	9	脳	復習　脳の構造を英語で覚える　（医学英語入門）
	10	耳の構造	復習　解剖学的構造を英語で覚える （医学英語入門）
	11	嚥下のプロセス	復習　口腔・咽頭・喉頭の構造を英語で覚え、嚥下のプロセスを知る
	12	呼吸器系	復習　肺の構造を英語で覚える
	13	後半総復習	復習問題
	14	小試験	8～12週までの小試験
	15	言語障害	原因疾患名を覚える
	16	定期試験	

履修上の留意点

・前回学んだ内容を復習しながら授業を進めるのでその都度、単語をしっかり覚えること。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	英会話		指導担当者名	室井　由美子
実務経験	アメリカナショナル大学解剖生理学元講師		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	Use simple、every day English			
評価方法 評価基準	group work、pair work、dictation、creating　conversation 学習評価は、上記の取り組み状況と達成度合いを加味して行う。 評定は、次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	クリスティーンのやさしい看護英会話　　医学書院			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	Unit1	Please speak more slowly
	2	Unit2	Where are you from?
	3	Unit3	Could you tell me your address.please?
	4	Unit4	What department do you want to visit?
	5	Unit5	Where is the X-ray department?
	6	Unit6	What are your symptoms?
	7	Unit7	Where does it hurt?
	8	Unit8	Have you ever had any serious illnesses?
	9	Unit9	take one tablet,four tines a day.
	10	Unit10	Let me make an appointment for your test.
	11	Unit11	Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.
	12	Unit12	How are you feeling today?
	13	ST interview～translate and perform	
	14	ST interview～translate and perform	
	15	Final test	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	保健		指導担当者名	佐々木　克嘉	
実務経験	健康運動指導士			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
単位数	1単位	週時間数	2時間		
学習到達目標	生活における健康や安全に関する理解し、生涯を通じて自らの健康を管理し・改善していく資質や能力を育てる。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）				
使用教材	担当教員作成の資料による				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	健康のすがた	健康の考え方、変化について学ぶ
	2	生活習慣病について	生活習慣病の病気と予防について学ぶ
	3	喫煙と飲酒	健康の影響について学ぶ
	4	スポーツの効果と安全について	身体機能を学ぶ（BMIなど）
	5	スポーツの効果と安全について	スポーツの効果について学ぶ（スポーツ栄養も含む）
	6	スポーツの効果と安全について	（内科的）運動障害の予防・処置について学ぶ
	7	スポーツの効果と安全について	（外科的）運動障害の予防・処置について学ぶ
	8	まとめ	まとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	体育		指導担当者名	佐々木　克嘉
実務経験	健康運動指導士		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	①自身の健康・体力の維持、増進をはかる。 ②安全に配慮し、協力して行動することができる。 ③時間を考えながら行動することが出来る。			
評価方法 評価基準	学習評価は、課題レポートの評価に出席状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	担当教員作成の資料による			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	体操・ストレッチ・ボールゲーム
	2	個人競技	体操・ストレッチ・バドミントン
	3	団体競技	体操・ストレッチ・バレー
	4	グループ活動	体操・ストレッチ・種目選択
	5	グループ活動	体操・ストレッチ・リハーサル等
	6	グループ活動	発表
	7	グループ活動	発表
	8	発表・まとめ	発表
	9	ボールゲーム	体操・ストレッチ・バレーボール・バスケット・ドッジボール等
	10	ボールゲーム	体操・ストレッチ・バレーボール・バスケット・ドッジボール等
	11	ボールゲーム	体操・ストレッチ・バレーボール・バスケット・ドッジボール等
	12	ボールゲーム	体操・ストレッチ・バレーボール・バスケット・ドッジボール等
	13	球技大会の練習	種目別・体操・ストレッチ
	14	球技大会の練習	種目別・体操・ストレッチ
	15	球技大会の練習	種目別・体操・ストレッチ
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	医学総論		指導担当者名	吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	日本の医療現場の現状を見極め、現代医療の本質を認識する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と調べ学習（レポート作成・提出）を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	配布プリント			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	医学とは？　医学の歴史	概論
	2	医療に従事する人々	職種、チーム医療
	3	医療体制	医療施設
	4	健康とは？	生活習慣病
	5	リハビリテーション	障害者施設
	6	高齢者ケア	少子高齢化社会と医療
	7	今日の病院事情	救急医療、ホスピス等
	8	近代医学の発達	感染症・医療サービス等

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	解剖学		指導担当者名	室井　由美子
実務経験	アメリカナショナル大学解剖生理学元講師		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	解剖学的構造の位置を把握し、その構造を実際に献体写真にて見分けることができる。　また人体モデルで構造を理解できる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に小テスト（2回）の結果を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　講師作成パワーポイント教材　人体モデル　献体写真			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	人体の階層	ガイダンス　細胞～個体　細胞小器官
	2	組織	上皮、支持組織、筋肉、神経組織
	3	血液系	赤血球・白血球・血小板・血漿・血清
	4	心臓	心臓各部位の名前と心臓に出入する動静脈血管の名前を知る （献体写真、人体
	5	循環器系	主要動脈・静脈・リンパ系の名前を知る （献体写真、人体モデルで把握する）
	6	呼吸器系	口腔～気管・気管支・肺の構造 （献体写真、人体モデルで把握する）
	7	消化器系	口腔～肛門までの各部位の名前 （献体写真、人体モデルで把握する）
	8	小試験I　神経系①	1～7週までの復習問題　ニューロンの構造　脊髄・延髄・橋・中脳・間脳・大脳
	9	神経系②	体性・自律神経
	10	特殊感覚①	眼と耳の構造 （人体モデルで把握する）
	11	特殊感覚②	聴覚・平衡覚　臭覚　味覚
	12	内分泌系	内分泌腺とホルモン
	13	骨格・骨格筋	主要骨名・筋肉名を知る （献体写真、人体モデルで把握する）
	14	泌尿器系・生殖系	腎臓・尿管・尿道　男女生殖器構造　（献体写真、人体モデルで把握する）
	15	小試験II	8週～14週までの復習問題　総復習
	16		

履修上の留意点

・授業で勉強した解剖学的構造を解剖された献体の写真でも人体モデルでも把握することができるようにする。
・試験前には講師より試験の為の復習問題が提供される。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	生理学		指導担当者名	室井　由美子
実務経験	アメリカナショナル大学解剖生理学元講師		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科　1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	人体の生理学を局所的・系統的に理解する。 診断を的確にする為に人体全体の機能についての知識をもつことは必要であるが、 特に言語聴覚士として理解する必要のある神経系・咽頭・喉頭・呼吸器・胎生・睡眠系をより深く理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	人体の階層	ガイダンス　　分子から個体を形成するまでの機序
	2	代謝	炭水化物、脂肪、タンパク質代謝　ATP産生
	3	血液系	赤血球・白血球・血小板の作用
	4	循環器系	刺激伝導・心拍出量
	5	消化器系	嚥下と消化・吸収の仕組み
	6	膵・胆・肝臓	胆汁産生と循環・膵液と内分泌の作用・肝臓の作用
	7	呼吸器系	呼吸気量・ガス交換・呼吸筋
	8	活動電位・筋収縮	脱分極・再分極　　筋収縮の機序
	9	小試験　　神経系①	2～8週までの復習問題　　大脳野　　中枢
	10	神経系②	視覚・聴覚の伝導路　脳神経とその作用
	11	顔面の筋と神経	咀嚼筋・表情筋とその神経支配
	12	睡眠の波形	睡眠の波形とその意味
	13	胎生学	発生の機序
	14	小試験	9～13週までの復習問題　　総復習
	15	水分・pHの調節	細胞外液・内液　pHの調節　　総復習
	16		

履修上の留意点

・解剖学的構造と照らし合わせてその作用を理解し系統別の理解から統合的な理解を目指す。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	病理学		指導担当者名	室井　由美子
実務経験	アメリカナショナル大学解剖生理学元講師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	病気の時に、人間の身体の中で何が起きているのか、病態を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に小テスト（2回）の結果を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	系統看護学講座　専門基礎　病理学　　医学書院			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	病理学とは　循環障害I	ガイダンス・局所の循環障害
	2	循環障害II	全身の循環障害
	3	先天異常I	DNAと染色体
	4	先天異常II	染色体の異常による疾患
	5	細胞・組織の損傷	萎縮・肥大・化成・壊死・アポトーシス
	6	細胞の修復	肉芽組織と瘢痕組織
	7	炎症	炎症の5徴候
	8	小試験I	1週～7週までの試験
	9	感染症	感染の種類
	10	免疫と免疫不全	非特異的・特異的免疫
	11	代謝障害	糖・タンパク質・脂質代謝障害
	12	アレルギー	I～V型アレルギー
	13	腫瘍	良性・悪性腫瘍
	14	加齢	身体の変化
	15	小試験II	8～14週までの試験
	16	定期試験	

履修上の留意点

・基本的な病気の成り立ちを勉強して正常と異常の違いを理解できるようにする。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	精神医学		指導担当者名	吉田　寿晃
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	精神医学の基本的な知識を習得する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士テキスト第3版、配布プリント			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	概要	精神医学総論
	2	内因性精神疾患（統合失調症）	概要・症状・治療
	3	内因性精神疾患（統合失調症）	概要・症状・治療
	4	内因性精神疾患（気分障害）	概要・症状・治療
	5	内因性精神疾患（気分障害）	概要・症状・治療
	6	心因性精神疾患（神経症と心身症）	概要・症状・治療
	7	心因性精神疾患（不安障害）	概要・症状・治療
	8	心因性精神疾患（パニック障害）	概要・症状・治療
	9	心因性精神疾患（解離性・転換性障害）	概要・症状・治療
	10	心因性精神疾患（PTSD）	概要・症状・治療
	11	心因性精神疾患（摂食障害）	概要・症状・治療
	12	器質性精神疾患（認知症）	概要・症状・治療
	13	器質性精神疾患（中毒）	概要・症状・治療
	14	精神保健	
	15	入院形態、まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	小児科学		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	通年	対象学科学年	言語聴覚士2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	小児の正常発達を理解した上で、小児期に特徴的な疾患を学ぶ。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	CHART10　小児科　第4版　（医学評論社）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　通年	1	概要	小児科学概要
	2	発達	正常発達について
	3	発達	正常発達について
	4	発達障害	発達障害について
	5	呼吸	呼吸系の疾患
	6	消化器	消化器系の疾患
	7	内分泌	内分泌系の疾患
	8	免疫	アレルギーについて
	9	腎臓・泌尿器	腎臓・泌尿器系の疾患
	10	循環器	循環器系の疾患
	11	先天異常	先天性異常について
	12	神経疾患	神経疾患について
	13	眼科・耳鼻科疾患	眼科疾患・耳鼻科疾患
	14	総まとめ	国試過去問
	15	復習	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	内科学		指導担当者名	今田　剛	
実務経験	医師			実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
単位数	2単位	週時間数	4時間		
学習到達目標	言語聴覚士の仕事を円滑に行うために必要な基本的内科疾患を理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、課題レポートの評価にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	ビジュアルノート、病気の地図帳				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	消化器	食道アカラシア・胃食道潰瘍・慢性胃炎他
	2	消化器	食道癌・大腸癌・イレウス・肝炎他
	3	胆嚢・膵臓・肝臓	胆石・膵炎・肝硬変・脂質異常他
	4	循環器	狭心症・心筋梗塞。心房細動
	5	内分泌	バセドウ病・クッシング症候群他
	6	内分泌	アジソン病・褐色細胞腫他
	7	腎・泌尿器	1型・Ⅱ型糖尿病・腎不全・ネフローゼ症候群・腎盂腎炎他
	8	免疫・アレルギー	免疫・アレルギーの型他
	9	免疫・アレルギー	SLE・ベーチェット病・シェーグレン症候群他
	10	血液	貧血・白血病・悪性リンパ種他
	11	血液	紫斑病・血友病他
	12	感染症	HIV感染症・性感染症他
	13	感染症	食中毒・日和見感染症他
	14	呼吸器	自然気胸・睡眠時無呼吸症候群・肺水腫他
	15	呼吸器	肺換気障害（COPD）・肺がん他
	16		

履修上の留意点
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	リハビリテーション医学		指導担当者名	泉山　仁
実務経験	医師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	脳神経外科を理解しながら現場のリハビリテーションを学んでいく			
評価方法 評価基準	学習評価は、課題レポートの評価にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	リハビリテーション医学テキスト			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	脳神経外科とは	神経学の視かた
	2	脳卒中総論	脳卒中の考え方
	3	脳卒中各論	脳梗塞について
	4	脳卒中各論	脳出血・くも膜下出血について
	5	画像診断	頭部CTの診かた
	6	脳損傷	頭部外傷・脳腫瘍について
	7	まとめ	画像診断の復習
	8	循環障害	未破裂動脈瘤
	9	手術	脳腫瘍の手術の実際
	10	ケア体制	脳卒中ケアユニット
	11	ケア体制	DVD
	12	まとめ	脳卒中の振り返り
	13	小テスト	脳卒中について
	14	小テスト	解説
	15	レポート作成	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	臨床神経学		指導担当者名	今田　剛
実務経験	医師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	各神経疾患の理解			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	病気がみえるvol. 7　脳・神経　（MEDIC MEDIA）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	脳梗塞、錐体路	脳梗塞の病態、錐体路とは、錐体路症状
	2	脳梗塞、脳出血	脳梗塞の病態、脳出血の病態
	3	脳出血、クモ膜下出血、感覚路	脳出血の病態、クモ膜下出血の病態、感覚路とは
	4	脳血管障害の病態・治療・経過（1）	画像所見・検査、脳動脈奇形・もやもや病・脳浮腫、脳ヘルニア
	5	脳血管障害の病態・治療・経過（2）	脳の可塑性とリハビリテーション（高次脳機能障害と種々の症状）
	6	脳血管障害の病態・治療・経過（3）	内頸動脈ー海面静脈洞瘻、水頭症、正常圧水頭症 運動・感覚・自律神経・協調運動・反射・
	7	神経系	脳神経とそれぞれの働き、末梢神経
	8	神経系の病態（1）	多発性硬化症、ALS、パーキンソン病、
	9	神経系の病態（2）	ハンチントン病、脊髄小脳変性症、亜急性脊髄連合変性症
	10	筋疾患	筋ジストロフィー、重症筋無力症、ギランバレー症候群
	11	認知症	認知症の病態と特徴、治療、経過
	12	認知症状を呈す疾患	髄膜炎、脳腫瘍、ヘルペス脳炎、インフルエンザ脳症、プリオン病、てんかん
	13	神経・筋の異常	頭痛、二分脊椎症、様々な脳腫瘍
	14	神経・筋の異常	頭部外傷、頭蓋内出血、硬膜下血腫、脳挫傷、意識障害
	15	検査方法補足、テスト	f－MRI　筆記テスト
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	耳鼻咽喉科学		指導担当者名	寺内　義貴
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	耳鼻咽喉科学領域の基礎知識の理解を深める 言語聴覚士になる上で知っておくべき耳鼻咽喉科との関係			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	病気がみえるvol.13　耳鼻咽喉科（MEDIC MEDIA）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	耳科学	解剖・生理・検査
	2	耳科学	外耳の疾患・中耳の疾患
	3	耳科学	中耳の疾患
	4	耳科学	中耳の疾患
	5	耳科学	内耳の疾患
	6	耳科学	内耳の疾患
	7	耳科学	平衡機能について
	8	鼻科学	解剖・生理・検査
	9	鼻科学	鼻の疾患
	10	鼻科学	鼻の疾患
	11	口腔・咽頭科学	解剖・生理・検査
	12	口腔・咽頭科学	口腔の疾患
	13	口腔・咽頭科学	咽頭の疾患
	14	食道科学	食道の疾患
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	形成外科学		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	言語聴覚士として医療機関で働く上で、形成外科領域の基本事項について理解する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に出席状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	配布プリント　　参考図書：標準形成外科学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	形成外科総論	皮膚の解剖と生理　創傷治癒とその過程
	2	組織移植	植皮
	3	組織移植	皮弁
	4	難治性皮膚潰瘍	褥瘡　糖尿病性足潰瘍　重症下肢虚血
	5	外傷	熱傷　顔面外傷
	6	皮膚腫瘍	皮膚良性腫瘍　皮膚悪性腫瘍　ケロイドと肥厚性瘢痕
	7	先天性外表異常	唇裂　口蓋裂　顎裂
	8	先天性外表異常　国試対策	頭蓋骨早期癒合症　過去の国家試験問題の対策と考え方
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点
・試験は授業中のスライドとプリントから出題する。
・記述問題のできない学生は例年50点未満だが、授業をシッカリ聞いていれば90点以上は取れる。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	顔面・口腔の解剖・生理・病態を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学　医歯薬出版			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	歯の図と名称	ガイダンス・歯科領域の疾患について
	2	記号・方向用語	記号・方向用語
	3	歯と歯列の発育	歯と歯列の発育
	4	唾液腺・顔面・口腔の解剖	顔面の名称他
	5	口腔の解剖	口腔軟組織の形態
	6	う蝕	進行度
	7	う蝕	乳歯う蝕
	8	歯周疾患	病態
	9	歯周疾患	予防・治療
	10	治療	う蝕・歯周疾患の治療
	11	鼻咽腔閉鎖機能	鼻咽腔閉鎖機能とは？
	12	鼻咽腔閉鎖機能	機能不全でおこる病態
	13	顎関節の関わる疾患	強直症・関節症
	14	補綴的発音補助装置	スピーチエイド・パラタルリフト他
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚系の構造・機能・病態		指導担当者名	寺内　義貴
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	聴覚器の構造と機能を学び、聴覚についての知識を深める。また、聴覚障害とその原因についてそれぞれの特徴や違いを理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験とレポートにより行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	病気がみえる耳鼻咽喉科（株式会社メディックメディア）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	ガイダンス	授業の概要
	2	構造（1）	外耳・中耳・内耳の全体像
	3	構造（2）	耳の概観（1）
	4	構造（3）	耳の概観（2）
	5	構造（4）	聴器の部位・名称
	6	機能（1）	伝音系・外耳道
	7	機能（2）	中耳の機能
	8	機能（3）	中耳伝音機構
	9	機能（4）	内耳のしくみ　聴覚伝導路
	10	病態（1）	難聴の原因
	11	病態（2）	伝音難聴
	12	病態（3）	感音難聴
	13	病態（4）	後迷路性難聴
	14	まとめ	聴覚系まとめ
	15	復習	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	呼吸・発声・発語に関わる器官の構造を理解した上で、呼吸の生理・発声の生理・発語の生理を理解する。また、呼吸器系に関わる疾患を学び、病態を把握する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	ディサースリアの基礎と臨床　インテルナ出版			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	発声・構音器官の構造・機能	発声と構音・肺・気管・気管支
	2	発声・構音器官の構造・機能	胸郭と横隔膜
	3	発声・構音器官の構造・機能	呼吸筋
	4	発声・構音器官の構造・機能	喉頭のしくみ
	5	発声・構音器官の構造・機能	喉頭のしくみ
	6	発声・構音器官の構造・機能	付属管腔
	7	呼吸調節	呼吸運動
	8	呼吸調節	肺容量・スパイログラム
	9	呼吸調節	肺容量・スパイログラム
	10	呼吸調節	呼気調節
	11	呼吸調節	発声時の喉頭調節
	12	付属管腔	下顎・舌の構造とはたらき
	13	付属管腔	鼻咽腔閉鎖機能と口蓋
	14	付属管腔	口唇と発声
	15	まとめ	総復習
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	神経系の構造・機能・病態		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	神経の構造と働き・代表的な疾患を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	入門人体解剖学・病気がみえる			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	神経系の分類	中枢神経、末梢神経
	2	脳の構造とはたらき	大脳・脳幹他
	3	脳の構造とはたらき	大脳基底核・線維
	4	運動伝達路①	皮質脊髄路
	5	運動伝達路②	皮質延髄路
	6	運動伝達路③	上位運動ニューロン・下位運動ニューロン
	7	運動伝達路④	中枢性麻痺・末梢性麻痺
	8	運動伝達路⑤	錐体外路・反射
	9	疾患①	運動の伝導路の障害による疾患①
	10	疾患②	運動の伝導路の障害に「よる疾患②
	11	脳精髄液循環	脳脊髄液循環
	12	脳神経①	名称・機能他
	13	脳神経②	名称・機能他
	14	脳神経③	脳神経の障害による病態①
	15	脳神経④	脳神経の障害による病態②
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	臨床心理学		指導担当者名	佐藤　明宏
実務経験	公認心理士		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	臨床心理学の理論について、歴史的な背景を知り各派の特徴の違いと共通点を知る。 今後の自分の職業においても対人援助の面で約に立つものを吸収する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	よくわかる臨床心理学　ミネルヴァ書房			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	臨床心理学とは	臨床心理学について
	2	臨床心理学とは	臨床心理学の定義
	3	臨床心理学とは	臨床心理学の定義基本構造　演習
	4	臨床心理学の構造	カウンセリング
	5	臨床心理学の構造	カウンセリング演習
	6	臨床心理学の構造	歴史　心理療法
	7	臨床心理学の実践活動	実践活動の過程
	8	臨床心理学の実践活動	演習　面接と観察者
	9	世界の臨床心理学の歴史	学派の成立　臨床心理学の成立
	10	エンパワーメント	エンパワーメントの定義とその達成のプロセス
	11	心理テスト	心理テストとはなにか　ストレス
	12	不登校	不登校　いじめ　ひきこもり
	13	異常心理学	薬物
	14	異常心理学	摂食障害　不安障害
	15	異常心理学	身体表現性障害と解離性障害　性障害
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	臨床心理学		指導担当者名	佐藤　明宏
実務経験	公認心理士		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	臨床心理学の理論について、歴史的な背景を知り各派の特徴の違いと共通点を知る。 今後の自分の職業においても対人援助の面で約に立つものを吸収する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	よくわかる臨床心理学　ミネルヴァ書房			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	異常心理学	統合失調症　ビデオ 「リストカット」
	17	異常心理学	パーソナリティ障害
	18	発達障害	PDD・AD／HD・LD
	19	発達過程で生じる障害や問題	不登校・いじめ
	20	発達過程で生じる障害や問題	非行
	21	発達過程で生じる障害や問題	ビデオ　非行
	22	発達	発達課題
	23	発達	発達課題
	24	発達	発達段階
	25	心理療法	認知行動療法
	26	心理商法	家族療法
	27	心理療法	コミュニティ心理学・動作療法
	28	心理療法	森田療法
	29	心理療法	箱庭療法・夢分析
	30	まとめ	
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	学習心理学		指導担当者名	吉田　寿晃
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	学習心理学は心理学のもっとも基礎的な領域である。今日の心理学の基礎が学習心理学の研究によって築き上げられていたといっても過言ではない。この授業では心理学の基礎を理解するとともに、学習心理学の領域で明らかにされてきた様々な学習の仕組みを正しく理解することが求められる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格） ただし、授業への積極的な参加や取り組みに対して加点、参加態度が良好でない場合に減点する場合がある。			
使用教材	言語聴覚士のための心理学　第2版（医歯薬出版）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	心理学のプロフィール	ガイダンス
	2	単純な学習1	順化と鋭敏化
	3	単純な学習2	初期学習
	4	古典的条件付け1	パブロフの研究と古典的条件付け
	5	古典的条件付け2	古典的条件付けにおける般化と分化
	6	古典的条件付け3	古典的条件付けの枠組みと評価
	7	オペラント条件付け1	ソーンダイクの研究
	8	オペラント条件付け2	オペラント条件付けの枠組みと評価
	9	オペラント条件付け3	オペラント条件付けの枠組みと評価
	10	条件付けの応用	条件付けの応用
	11	記憶の総論1	記憶の過程
	12	記憶の総論2	記憶の過程構造
	13	記憶の各論1	感覚記憶と短期記憶
	14	記憶の各論2	長期記憶
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	認知心理学		指導担当者名	高橋　純一
実務経験	大学准教授		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	認知心理学に関する基礎的知識を習得するとともに，人間の知覚・感情・記憶・思考などについて実証的で総合的な理解を目標とする。さらに，日常生活に認知心理学の知識が役立つことを理解することが到達目標である。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果（70%）に小テスト結果（30%）を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	「新・知性と感性の心理ー認知心理学最前線ー」 行場次朗・箱田裕司（編著） 福村出版			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	認知心理学とは，心理学史 ［序章］
	2	感覚・知覚	感覚・知覚の種類と特徴，奥行き，空間知覚 ［1章］
	3	視知覚①	視覚パターン認知，顔認知，錯視，ゲシュタルト要因 ［2章］
	4	視知覚②	よさ，美しさ，色，奥行きの知覚，デザイン，感性認知 ［4章］
	5	注意	選択的注意，注意の諸機能，注意の障害 ［6章］
	6	記憶①	記憶の処理過程，記憶の種類 ［7章］
	7	記憶②	日常記憶，展望的記憶，自伝的記憶 ［8章］
	8	動機づけと条件づけ	内発的/外発的動機づけ，古典的/道具的条件づけ，学習理論 ［資料］
	9	感情	感情の各理論，感情認知，感情の発達 「9章」
	10	推理	知識と思考，スキーマ，帰納的推理と演繹的推理， ［10章］
	11	問題解決	推論，類推，アルゴリズムとヒューリスティクス，洞察 ［10章］
	12	社会的認知	対人認知，印象形成，ステレオタイプ，帰属理論 ［12章］
	13	知能①	知能の歴史と理論，知性の発達 ［13章，資料］
	14	知能②	知能の測定法，様々な知能検査 ［資料］
	15	まとめ	まとめ，これからの認知心理学 ［5章，11章，終章］
	16		

履修上の留意点
・典型的な心理学の実験や検査を実施することがあるため、積極的に参加すること。
・授業の進度によって、内容が変更される可能性あり。
・携帯電話は必ずかばんの中にしまって授業を受けること。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。　・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	生涯発達心理学		指導担当者名	佐藤　明宏
実務経験	公認心理士		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	「発達は一生涯続くもの」という近年の生涯発達心理学の考え方をもとに様々な研究や理論を通して小児から老年までの人の発達を学ぶことで医療医従事者として必要な患者様理解ならびに自己理解を深める。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、授業受講態度、関心意欲、中間レポート課題の提出状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	上田礼子「生涯発達心理学」三輪書店			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	人間発達とは	成長と発達の違い、発達段階と発達課題
	2	発達の要因	遺伝要因説、環境要因説
	3	生涯発達の研究方法	観察法、面接法、実験法、ケーススタディ
	4	胎児期	出生前発達と出生
	5	新生児期から乳児期	新生児・乳児期特有の発達と特徴
	6	幼児期までの各種研究①	情緒の発達、視覚的断崖
	7	幼児期までの各種研究②	愛着、アカゲザルの実験、新奇場面法
	8	幼児期前期①	身体の発達と社会性の発達
	9	幼児期前期②	言語発達と認知能力の発達
	10	幼児期後期①	社会性の発達と知能の発達
	11	幼児期後期②	人と能力の発達と遊びの変化
	12	幼児期の問題と支援	発達の遅れと支援
	13	児童期①	小学校低学年の特徴と課題
	14	児童期②	小学校中学年の特徴と課題
	15	児童期③	小学校高学年の特徴と課題

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	生涯発達心理学		指導担当者名	佐藤　明宏
実務経験	公認心理士		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	「発達は一生涯続くもの」という近年の生涯発達心理学の考え方をもとに様々な研究や理論を通して小児から老年までの人の発達を学ぶことで医療医従事者として必要な患者様理解ならびに自己理解を深める。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、授業受講態度、関心意欲、中間レポート課題の提出状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	上田礼子「生涯発達心理学」三輪書店			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	人間発達とは	成長と発達の違い、発達段階と発達課題
	2	発達の要因	遺伝要因説、環境要因説
	3	生涯発達の研究方法	観察法、面接法、実験法、ケーススタディ
	4	胎児期	出生前発達と出生
	5	新生児期から乳児期	新生児・乳児期特有の発達と特徴
	6	幼児期までの各種研究①	情緒の発達、視覚的断崖
	7	幼児期までの各種研究②	愛着、アカゲザルの実験、新奇場面法
	8	幼児期前期①	身体の発達と社会性の発達
	9	幼児期前期②	言語発達と認知能力の発達
	10	幼児期後期①	社会性の発達と知能の発達
	11	幼児期後期②	人と能力の発達と遊びの変化
	12	幼児期の問題と支援	発達の遅れと支援
	13	児童期①	小学校低学年の特徴と課題
	14	児童期②	小学校中学年の特徴と課題
	15	児童期③	小学校高学年の特徴と課題

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	生涯発達心理学		指導担当者名	佐藤　明宏
実務経験	公認心理士		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	「発達は一生涯続くもの」という近年の生涯発達心理学の考え方をもとに様々な研究や理論を通して小児から老年までの人の発達を学ぶことで医療医従事者として必要な患者様理解ならびに自己理解を深める。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果、授業受講態度、関心意欲、中間レポート課題の提出状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	上田礼子「生涯発達心理学」三輪書店			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	発達障害	児童期における発達障害の特徴と支援
	17	青年期①	青年期の発達の特徴
	18	青年期②	モラトリアム、心理的離乳、二次性徴
	19	青年期③	昨今の青年期の問題
	20	中年期	中年期危機を中心に
	21	老年期①	高齢化社会と死の受容
	22	老年期②	サクセスフルエイジングと喪失
	23	知能の発達	知能の研究と知能検査
	24	知能検査①	ビネー式とウェクスラー式
	25	知能検査②	各種検査用具紹介
	26	知能検査③	検査の基礎練習
	27	エリクソンのライフサイクル論	各期の課題と特徴
	28	愛着(アタッチメント)	ボウルビィ、ハーロウ、エインズワース
	29	ピアジェの諸理論	シェマ、同化、調節、認知発達段階
	30	まとめ	まとめ
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	心理測定法		指導担当者名	高橋　純一
実務経験	大学准教授		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	心理学研究の基礎をなす測定法の理論や具体的測定方法について理解し，心理学の各領域を代表する研究から実践的に学ぶ			
評価方法 評価基準	学習評価は、小テスト（10%）　課題レポート（50%）　期末試験（40%）にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	「よくわかる心理統計」 山田剛史・村井潤一郎（著） ミネルヴァ書房			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	オリエンテーション	心理測定法，精神物理学的測定法，閾値
	2	尺度と信頼性・妥当性	平均値と分散値，名義・順序・間隔・比率尺度，信頼性と妥当性
	3	精神物理学的測定法①	実験と分析
	4	精神物理学的測定法②	結果と考察　※ 課題レポート
	5	記憶実験①	実験と分析
	6	記憶実験②	結果と考察　※ 課題レポート
	7	評定実験①	実験と分析
	8	評定実験②	結果と考察　※ 課題レポート
	9	質問紙法①	調査と分析
	10	質問紙法②	結果と考察　※ 課題レポート
	11	心理臨床におけるアセスメント①	知能検査
	12	心理臨床におけるアセスメント②	発達検査　※ 課題レポート
	13	心理統計①	平均値の比較
	14	心理統計②	多変量解析
	15	まとめ	まとめ，復習
	16		

履修上の留意点
・典型的な心理学の実験や検査を実施することがあるため、積極的に参加すること。
・主にグループ活動をするため、他者に迷惑のかからないようにすること。
・授業の進度によって、内容が変更される可能性あり。　・携帯電話は必ずかばんの中にしまって授業を受けること。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。　・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語学		指導担当者名	渡邉　智恵
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	言語学の考え方や基礎的知識を学び、日本語とはどのような言語なのかを学んでいく。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行うが、授業への取り組み姿勢も考慮する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	よくわかる言語学入門　解説と演習			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	イントロダクション、言語の特性	恣意性・二重分節性
	2	言語の特性	線条性・構造・体系
	3	音韻論（1）	音素の設定、音声・音素・音節、
	4	音韻論（2）	相補分布、自由変異
	5	音韻論（3）	音節数とモーラ数
	6	音韻論（4）	アクセント、音韻論演習
	7	形態論（1）	形態素と種類、品詞、
	8	形態論（2）	自由・拘束形態素
	9	形態論（3）	異形態、語形成
	10	統語論（1）	修飾部と主要部、直接構成素分解
	11	統語論（2）	
	12	意味論	格、助詞、意味関係
	13	語用論、社会言語学	協調の原理、言語変種
	14	語用論、社会言語学	協調の原理、言語変種
	15	日本語の特徴	語彙体系、音声的、文法的特異性
	16		

履修上の留意点

・毎回、授業で使用するスライドを印刷したものを配布します。しっかりメモを取って、復習してください。
・授業後、自分で内容を見直して質問や不明な点があれば、次の授業で確認してください。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	音声学		指導担当者名	渡邉　智恵
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	言語聴覚士にとって日々の臨床に不可欠な音声学の基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。 単音レベルから始めて、韻律レベルの知識までを実際の聴きとり演習や発音訓練を通して学ぶ。			
評価方法 評価基準	授業への参加姿勢（出席＋質疑応答）3割、始業時に行う復習クイズ7割を総合して評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士のための基礎知識　音声学・言語学　第2版（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業全体について 音声学の基本的知識
	2	音声学の基礎（1）	音声学の基本的知識　資料1
	3	音声学の基礎（2）	音声学の基本的知識
	4	音声学の基礎（3）	音声学の基本的知識　DVD「脳と言語」
	5	単音-母音（1）	母音について
	6	単音-母音（2）　単音-子音（1）	母音について　子音「カ行」「ガ行」
	7	単音-子音（2）	子音「サ行」「ザ行」子音「タ行」「ダ行」
	8	単音-子音（3）	子音「ナ行」「ハ・バ・パ」「マ・ヤ・ラ行」
	9	音節（1）	韻律的特徴
	10	音節（2）	〃
	11	アクセント（1）	アクセントパターン
	12	アクセント（2）	
	13	イントネーション（1）	
	14	イントネーション（2）	
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	音響学		指導担当者名	寺内　義貴
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	言語聴覚士として必要な音の物理的な性質と、日本語音声の生成・分析の知識を習得する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験とレポートにより行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士の音響学入門（海文堂書店）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	音入門（1）	周波数、周期、振幅、波長、音速
	2	音入門（2）	周波数、周期、波長、音速の計算
	3	音のスペクトル	音の種類、純音と複合音、スペクトル
	4	デシベル（1）	単位、指数と対数
	5	デシベル（2）	デシベルの定義、計算演習
	6	音圧レベル	音圧レベルの定義、音圧レベルの計算
	7	音圧レベルと音の強さレベル	音圧と音の強さ　dBSPLとdBIL
	8	音の物理的性質	屈折、反射、吸音、干渉、うなり、ドップラー効果
	9	総合演習	周波数、周期、波長、音速、音圧レベル
	10	聴力レベルと感覚レベル	聴力レベルと感覚レベルの定義および音圧レベルとの関係
	11	音源フィルター理論（1 ）	閉管の共鳴、声道の共鳴とホルマント
	12	音源フィルター理論（2）	母音の生成と各母音の特徴
	13	音のデジタル化	標本化と量子化
	14	スペクトログラム	スペクトログラムの作成、スペクトログラムにみる母音と子音の特徴
	15	プレテスト	プレテスト
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚心理学		指導担当者名	小笠原　奈保美
実務経験	大学教授		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年生	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	音響音声学の基礎知識を学び、それを基に人間の音声知覚に関する様々な事象を深く理解する。具体的には、音の大きさと高さの知覚、マスキング、両耳聴、カテゴリー知覚などについて学ぶ。			
評価方法 評価基準	授業への参加、課題の提出によって評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	「言語聴覚士の音響学入門」吉田友敬著2005年海文堂			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	音の物理的特性　1	耳の仕組み、音波、波長と周波数計算
	2	音の物理的特性　2	純音、複合音、音のスペクトルと共鳴
	3	音の物理的特性　3	倍音とスペクトログラム
	4	音の強さと知覚　1	デシベル、フォン、ソーン
	5	音の強さと知覚　2	デシベル、フォン、ソーン
	6	音の高さの知覚	ヘルツとメル、周波数と大きさの関係
	7	マスキング	種類、臨界帯域
	8	音の弁別と両耳聴	大きさの弁別、時間ピッチと場所ピッチ、方向知覚
	9	カテゴリー知覚	母音と子音のカテゴリー知覚
	10	その他の聴覚現象	マクガーク効果、ハース効果、補充現象
	11	音声音響学　1	母音の音響学、音源フィルタ理論
	12	音声音響学　2	子音の音響学
	13	復習	
	14	国試過去問演習　1	過去問集
	15	国試過去問演習　2	過去問集

履修上の留意点

・担当教員作成のノートを毎回持参し、予習・復習も欠かさず行ってください。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達学		指導担当者名	金見　美奈子
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	言語発達療法の基礎となることばの発達について学ぶ 正常なことばの発達過程について理解する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚障害総論Ⅱ　建帛社			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	ことばの発達	STにとってのことばの発達
	2	ことばの発達	言葉の発達の特徴
	3	ことばの発達段階	前言語期（喃語・指さし）
	4	ことばの発達段階	前言語期（三項関係・象徴機能）
	5	ことばの発達段階	前言語期（音韻知覚・母子相互作用）
	6	ことばの発達段階	1～2歳児の言語（初語・過大般用）
	7	ことばの発達段階	1～2歳児の言語（幼児語・爆発期・第一質問期）
	8	ことばの発達段階	1～2歳児の言語（CDS・一語発話・2語文）
	9	ことばの発達段階	幼児期の言語
	10	ことばの発達段階	幼児期の言語
	11	ことばの発達段階	児童期の言語
	12	ことばの発達段階	老年期の言語
	13	発達理論	言語獲得理論
	14	まとめ	
	15	ペーパーテスト	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	リハビリテーション概論（OT）		指導担当者名	岡本　宏二・横谷　貴之
実務経験	作業療法士（岡本）・理学療法士（横谷）		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	（OT分野） ・作業療法の理論と実際　・地域リハビリテーションの展開　・ボランティア等包括支援を学ぶ （PT分野） ①リハビリテーションの理念を理解した上で、医療、職業、教育等の様々なリハビリテーションの概念と理学療法を理解する。 ②脳卒中のリハビリテーションを通して、リハビリテーション医療の流れを理解する。 ③地域包括ケアシステムの構築で求められるリハビリテーション専門職の役割と多職種連携について理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、ペーパーテストによる定期試験にて行うが、授業への取り組み姿勢・発言も考慮する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	プリント教材、ビデオ教材			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	作業療法概論（1）	作業療法の歴史
	2	作業療法概論（2）	作業療法の根幹
	3	作業療法概論（3）	運動一感覚系の視点
	4	高次脳機能に関する作業療法	自閉症・認知症に対する実際例を通して学ぶ
	5	病院施設の作業療法・地域の作業療法	地域包括ケア等における作業療法の実際
	6	作業≒生活の視点から	ADL・IADL・QOLについて
	7	言語聴覚士との連携①	作業療法士が言語聴覚士に期待すること
	8	多職種との連携	リハビリと言語聴覚士
	9	リハビリテーションを理解する前の土台作り	リハビリテーションを理解するに当たり、自分を知り、相手を知ることの重要性を理解する。
	10	リハビリテーションの理念と様々な リハビリテーション	リハビリテーションの理念、医学的、教育的、心理的、職業的、社会的等の様々なリハビリテーションを理解する。
	11	理学療法	理学療法の概念、理学療法士の業務や職域等について理解する。
	12	リハビリテーション医療の流れ	脳卒中リハビリテーションを通して、急性期リハ、回復期リハ、維持期リハの流れを理解する。また、予防期リハや終末期リハの概要を理解する。
	13	リハビリテーション医療における 測定と検査、評価	脳卒中のリハビリテーションを通して、基本的なリハビリテーションの測定と検査、評価について理解する。
	14	地域リハビリテーションと 地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの基本的な考え方を踏まえ、地域リハビリテーション活動支援事業や介護予防事業等について理解する。
	15	多職種連携の実際・ペーパーテスト	多職種連携の実際を理解する。ペーパーテストの実施。
	16		

履修上の留意点

・適時、講義項目に関する様々な事例を紹介していきます。
・授業の進捗状況によっては、講義項目の順序を変更する場合があります。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	社会福祉・関係法規		指導担当者名	添田　祐司
実務経験	社会福祉士		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	社会福祉の制度やソーシャルワーク援助技術を学ぶことを通してSTとしての素養を高める			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	系統看護学講座　社会福祉（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	医療保障	社会福祉・関係法規ガイダンス 医療保障とは
	2	医療制度改革とソーシャルワーク	医療制度改革とソーシャルワークの関わり
	3	社会保障と社会福祉	社会保障と社会福祉について
	4	高齢者福祉と介護保障	高齢者福祉と介護保障の歴史と展望
	5	公的扶助	公的扶助について
	6	所得保障	所得保障について
	7	障害者福祉	障害者福祉について
	8	児童福祉	児童福祉について
	9	社会福祉実践① —	医療ソーシャルワーカーの役割
	10	社会福祉実践② —	医療ソーシャルワーカーの視点アセスメント
	11	社会福祉実践③ ソーシャルワーカーの患者理解①	チーム医療の理解として、連携の在り方を学ぶ
	12	社会福祉実践④ ソーシャルワーカーの患者理解Ⅰ	ブトリュムとバイスティックから学ぶ
	13	社会福祉実践⑤ ソーシャルワーカーの患者理解Ⅱ	グループワークを通して一人ひとり違う存在であることを学ぶ
	14	社会福祉実践⑥ ソーシャルワーカーの患者理解Ⅲ	グループワークを通して一人ひとり違う存在であることを学ぶ
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語聴覚障害学総論		指導担当者名	長谷川賢一・吾妻真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	言語聴覚士について全体的に概説した内容が理解できる。 言語聴覚士の仕事について理解できる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に小テストの結果を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害概論　第2版（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	言語聴覚障害とは	コミュニケーションとその障害、言語聴覚障害の特徴
	2	言語聴覚士とは（1）	言語聴覚士法、言語聴覚士が勤務する場所
	3	言語聴覚士とは（2）	言語聴覚士の役割について
	4	言語とコミュニケーション	言語・コミュニケーションとは、言葉の鎖
	5	言語と脳	言葉の鎖（小テスト）、脳の解剖、言語障害について
	6	失語症について	脳回・脳溝（小テスト）、失語症のタイプ・症状、話声試聴
	7	言語発達障害について	言語発達障害の原因・種類・症状、DSM-5 、ICD-11
	8	高次脳機能障害について	高次脳機能障害とは、原因・種類・症状
	9	音声障害について	音声障害とは、原因・種類・症状
	10	構音障害について（1）	機能性構音障害とは、誤り方の種類、音声サンプル試聴
	11	構音障害について（2）	器質性、運動障害性構音障害について、音声サンプル試聴
	12	吃音について	吃音の原因・中核症状・随伴症状
	13	摂食嚥下障害について	嚥下障害の原因・症状・摂食場面観察ポイント・合併症
	14	聴覚障害について	聴覚障害の種類・症状・音の聞こえ方・聴覚障害者疑似体験
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅰ		指導担当者名	金見　美奈子，吉田　寿晃
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり（金見） 医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり（吉田）		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	小児分野・急性期における言語聴覚障害の評価・診断の方法を学び、演習を行う。 言語聴覚障害の診断に必要な知識を確認する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	配布資料、各種専門科目教科書			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	言語発達障害とは	言語発達障害の原因と状態
	2	言語発達障害の評価診断①	言語聴覚士の役割・問診のポイントを学ぶ
	3	言語発達障害の評価診断②	評価の目的と方法を学ぶ①
	4	言語発達障害の評価診断③	訓練プログラム立案の方法を学ぶ
	5	言語発達障害の評価診断④	知的障害の評価、指導方法を学ぶ①
	6	言語発達障害の評価診断⑤	知的障害の評価、指導方法を学ぶ②
	7	言語発達障害の評価診断⑥	特異的言語発達遅滞の評価、指導方法を学ぶ①
	8	言語発達障害の評価診断⑦	特異的言語発達遅滞の評価、指導方法を学ぶ①
	9	言語発達障害の評価診断⑧	ASDの評価、指導方法を学ぶ①
	10	言語発達障害の評価診断⑨	ASDの評価、指導方法を学ぶ①
	11	言語発達障害の評価診断⑩	LDの評価、指導方法を学ぶ①
	12	言語発達障害の評価診断⑪	LDの評価、指導方法を学ぶ①
	13	言語発達障害の評価診断⑫	CPの評価、指導方法を学ぶ①
	14	言語発達障害の評価診断⑬	症例報告書を作成する
	15	講義まとめ	講義の内容のまとめを行う
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅰ		指導担当者名	金見　美奈子，吉田　寿晃
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり（金見） 医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり（吉田）		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	小児分野・急性期における言語聴覚障害の評価・診断の方法を学び、演習を行う。 言語聴覚障害の診断に必要な知識を確認する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	配布資料、各種専門科目教科書			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	急性期の評価・診断①	急性期の言語聴覚士の役割
	17	急性期の評価・診断②	急性期の評価の流れ
	18	急性期の評価・診断③	急性期の検査
	19	急性期の評価・診断④	急性期の検査実習
	20	急性期の評価・診断⑤	急性期の検査結果の分析と考察
	21	急性期の評価・診断⑥	問題点・目標設定
	22	急性期の評価・診断⑦	急性期におけるアプローチ方法
	23	急性期の評価・診断⑧	急性期の症例検討①
	24	急性期の評価・診断⑨	急性期の症例検討②
	25	急性期の評価・診断⑩	急性期の症例検討③
	26	急性期の評価・診断⑪	急性期の症例検討④
	27	急性期の評価・診断⑫	急性期の症例検討⑤
	28	急性期の評価・診断⑬	急性期の症例検討⑥
	29	急性期の評価・診断⑭	報告書の書き方
	30	急性期の評価・診断⑮	まとめ
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ		指導担当者名	吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	回復期・維持期分野における言語聴覚障害の評価・診断の方法を学び、演習を行う。 言語聴覚障害の診断に必要な知識を確認する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	配布資料、各種専門科目教科書			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	回復期の評価・診断①	回復期の言語聴覚士の役割
	2	回復期の評価・診断②	回復期の評価の流れ
	3	回復期の評価・診断③	回復期の検査
	4	回復期の評価・診断④	回復期の検査実習
	5	回復期の評価・診断⑤	回復期の検査結果の分析と考察
	6	回復期の評価・診断⑥	問題点・目標設定
	7	回復期の評価・診断⑦	訓練プログラム立案
	8	回復期の評価・診断⑧	回復期の症例検討①
	9	回復期の評価・診断⑨	回復期の症例検討②
	10	回復期の評価・診断⑩	回復期の症例検討③
	11	回復期の評価・診断⑪	回復期の症例検討④
	12	回復期の評価・診断⑫	回復期の症例検討⑤
	13	回復期の評価・診断⑬	回復期の症例検討⑥
	14	回復期の評価・診断⑭	報告書の書き方
	15	回復期の評価・診断⑮	まとめ
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ		指導担当者名	吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	回復期・維持期分野における言語聴覚障害の評価・診断の方法を学び、演習を行う。 言語聴覚障害の診断に必要な知識を確認する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	配布資料、各種専門科目教科書			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	維持期の評価・診断①	維持期の言語聴覚士の役割
	17	維持期の評価・診断②	維持期の評価の流れ
	18	維持期の評価・診断③	維持期の検査
	19	維持期の評価・診断④	維持期の検査実習
	20	維持期の評価・診断⑤	維持期の検査結果の分析と考察
	21	維持期の評価・診断⑥	問題点・目標設定
	22	維持期の評価・診断⑦	訓練プログラム立案
	23	維持期の評価・診断⑧	維持期の症例検討①
	24	維持期の評価・診断⑨	維持期の症例検討②
	25	維持期の評価・診断⑩	維持期の症例検討③
	26	維持期の評価・診断⑪	維持期の症例検討④
	27	維持期の評価・診断⑫	維持期の症例検討⑤
	28	維持期の評価・診断⑬	維持期の症例検討⑥
	29	維持期の評価・診断⑭	報告書の書き方
	30	維持期の評価・診断⑮	まとめ
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	失語症Ⅰ		指導担当者名	吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	失語症の定義、原因、病態、研究の歴史について理解できる。 失語症のタイプ分類と特色について理解できる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と授業で行う小試験を総合する。 評定は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　失語症学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	失語症について	失語症について（事例、映像使用）DVD（立石先生）
	2	失語症の定義	グループ学習課題
	3	失語症の原因	発表会（1）
	4	失語症の原因、脳卒中について	発表会（2）
	5	失語症研究の歴史 脳と神経ネットワーク	失語症研究の歴史、脳部位、神経ネットワーク　せんとくんPPT
	6	失語症研究～古典論について ウェルニッケリヒトハイムの図について	ウェルニッケリヒトハイム(プリント)
	7	小テスト タイプ分類の考え方について・ブローカ失語	小テストA ブローカ失語の特徴
	8	ブローカ失語（2）	ブローカ失語の特徴
	9	ウェルニッケ失語（1）	ウェルニッケ失語の特徴
	10	ウェルニッケ失語（2）、伝導失語	ウェルニッケ失語の特徴、伝導失語の特徴
	11	失名詞失語 TCMA、TCSA	失名詞失語、TCMA，TCSAの特徴
	12	MTCA、語義失語	MTCA、語義失語の特徴
	13	全失語、交叉性失語、皮質下性失語の病態	全失語、交叉性失語、皮質下性失語の特徴
	14	純粋型、発語失行など	純粋型、発語失行の特徴、総まとめ テスト範囲呈示
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	失語症Ⅱ		指導担当者名	吉田　寿晃，吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	失語症の基礎的事項の知識を深めるとともに、臨床知識を学び評価・訓練へと繋げる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　失語症学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	失語症状・関連症状振り返り	失語症Ⅰの学習内容の振り返り
	2	各期臨床の流れ①	急性期臨床について
	3	各期臨床の流れ②	回復期・維持期臨床について
	4	初回面接時の情報収集 関連職種からの情報収集	評価時の情報収集について
	5	失語症訓練技法①	刺激法・遮断除去法
	6	失語症訓練技法②	機能再編成法、行動変容法、PACE
	7	失語症訓練技法③	認知神経心理学的アプローチ
	8	標準失語症検査①	SLTAの目的、特徴の解説 『話す』の下位項目練習
	9	芳醇失語症検査②	『聞く』、『読む』の下位項目練習
	10	標準失語症検査③	『書く』、『計算』の下位項目練習
	11	具体例からの各モダリティの障害①	喚語、統語、聴覚的理解
	12	具体例からの各モダリティの障害②	復唱、読み、書字、計算機能の障害
	13	WAB失語症検査①	WAB失語症検査の特徴・内容の解説、自発話
	14	WAB失語症検査②	話し言葉の理解・復唱・呼称
	15	WAB失語症検査③	読み・書字・行為・構成・視空間行為・計算
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	失語症Ⅱ		指導担当者名	吉田　寿晃，吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	失語症の基礎的事項の知識を深めるとともに、臨床知識を学び評価・訓練へと繋げる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　失語症学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	重度失語症検査①	重度失語症検査の特徴・内容の解説、導入部・PART Ⅰ 演習
	17	重度失語症検査②	PARTⅡ・PARTⅢ演習
	18	失語症鑑別診断検査①	失語症鑑別診断検査の特徴・内容の説明、聞く過程・読む過程
	19	失語症鑑別診断検査②	話す過程・書く過程・数と計算
	20	掘り下げ検査について	ディープテストの種類、概要
	21	標準失語症検査補助テスト①	SLTA-STの特徴・内容の説明、発声発語器官および構音の検査
	22	標準失語症検査補助テスト②	yes-no応答、金額および時間の計算、まんがの説明、 長文の理解、呼称
	23	失語症語彙検査①	失語症語彙検査の特徴・内容の説明、語彙判断検査
	24	失語症語彙検査②	名詞・動詞検査、類義語判断検査、意味カテゴリー別名詞検査
	25	SALA失語症検査①	SALA失語症検査の特徴・内容の説明、演習①
	26	SALA失語症検査②	演習②
	27	実際の失語症状①	会話場面からの評価
	28	実際の失語症状②	呼称・復唱からの評価
	29	実際の失語症状③	失語症状の長期的経過
	30	実際の失語症状④	まとめ
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	失語症Ⅲ		指導担当者名	寺内　義貴	
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり			実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
単位数	2単位	週時間数	2時間		
学習到達目標	失語症に関わる言語処理、掘り下げ検査などについて学び、確認することで体得できる。 失語症の評価・訓練について考察・検討することができる。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験とレポートを総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	標準言語聴覚障害学　失語症学（医学書院）				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	検査、評価、訓練、援助について スクリーニング検査について	言語聴覚療法の流れ スクリーニング検査作成
	2	総合検査について SLTA	総合検査について SLTAに触ってみる
	3	SLTA　全体の流れ SLTA・演習	SLTA（1）概要
	4	SLTA解説・演習	SLTA（2）1～3
	5	SLTA解説・演習	SLTA（3）4～7
	6	SLTA解説・演習	SLTA（4）8～10
	7	SLTA解説・演習	SLTA（5）11～17
	8	SLTA解説・演習	SLTA（6）18～21
	9	SLTA解説・演習	SLTA（7）22～26、プロフィールについて
	10	SLTAのプロフィールの書き方	症例のプロフィールA・B・Cを書いてみる
	11	プロフィールの書き方　解説	症例をもちいて　解説 SLTAの解釈の仕方
	12	SLTA－ST（1）	検査内容確認、説明、演習
	13	SLTA－ST（2）	検査内容確認、説明、演習
	14	WAB（1）	検査内容確認、説明、演習
	15	WAB（2）	検査内容確認、説明、演習
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	高次脳機能障害Ⅰ		指導担当者名	渡邉　智恵
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	高次脳機能障害の各障害の基本概念・責任病巣・症状を理解する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	高次脳機能障害　概要	高次脳機能障害の授業予定 高次脳機能障害とは
	2	高次脳機能障害に関わる神経系	大脳の機能局在、神経ネットワーク
	3	視覚認知の障害（1）	皮質盲、視覚失認（連合型・統覚型）
	4	視覚認知の障害（2）	前回復習、同時失認、相貌失認、色彩認知の障害
	5	視空間認知の障害（1）	半側空間無視、地誌的見当識障害
	6	視空間認知の障害（2）	バリント症候群、構成障害 視覚性運動失調、視覚性消去現象
	7	聴覚認知の障害、触角認知の障害 身体意識・病態認知の障害	皮質聾、聴覚失認、触覚失認 ゲルストマン症候群、病態失認
	8	行為の障害（1）	観念運動失行、観念失行、肢節運動失行
	9	行為の障害（2）	口部顔面失行、着衣失行、習熟動作の解放現象
	10	記憶の障害（1）	記憶の分類、記憶障害の症状
	11	記憶の障害（2）	記憶障害の原因とメカニズム、種類、評価、訓練
	12	脳離断症候群	脳梁離断症候群のメカニズムと特徴的な症状
	13	認知症	認知症の定義と代表的な認知症
	14	国家試験問題	国家試験過去問
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	高次脳機能障害Ⅱ		指導担当者名	渡邉　智恵
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	高次脳機能障害の各障害の基本概念、責任病巣、症状を把握する。 高次脳機能障害の評価・訓練を行えるようにする。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	高次脳機能障害の発症～生活に戻るまで	ビデオ（高次脳機能障害のリハビリテーション②） 課題：レポート（症状とアプローチ、感想）
	2	前頭葉と高次脳機能障害（1）	前頭葉と高次脳機能障害
	3	前頭葉と高次脳機能障害（2）	前頭葉と高次脳機能障害
	4	検査演習（1）	グループワーク（WAIS-Ⅲ）
	5	検査演習（2）	グループワーク（レーブン、コース）
	6	検査演習（3）	グループワーク（HDS-R、MMSE）
	7	検査演習（4）	グループワーク（三宅式、ベントン、リバーミード、WMS-R）
	8	検査演習（5）	グループワーク（VPTA）
	9	検査演習（6）	グループワーク（SPTA）
	10	検査演習（7）	グループワーク（BIT）
	11	検査演習（8）	グループワーク（CAT、TMT）
	12	検査演習（9）	グループワーク（BADS、FAB）
	13	症例検討(1)	症例A様
	14	症例検討(2)	症例B様
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	高次脳機能障害Ⅲ		指導担当者名	加藤　らいと
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	1）高次脳機能障害によるADLや社会生活の困難さを理解する 2）高次脳機能障害の評価・訓練について理解し、治療計画を立案できる			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験（筆記）に、小テスト結果、評価報告書作成（グループワーク）の状況を加味して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害 第2版(医学書院)、プリント配布			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	高次脳機能障害 概説	概説（症状、解剖学的観点、脳神経生理学的観点）
	2	高次脳機能障害　検査概論	神経心理検査の種類と活用
	3	高次脳機能障害　評価概論	高次脳機能障害における評価方法
	4	注意障害　概論	概論（症状、ADLへの影響）
	5	注意障害　評価・訓練	注意障害を評価する検査法、訓練について
	6	半側空間無視　概論	概論（症状、ADLへの影響）
	7	半側空間無視　評価・訓練	半側空間無視を評価する検査法、訓練について
	8	記憶障害　概論	概論（症状、ADLへの影響）
	9	記憶障害　評価・訓練	記憶障害を評価する検査法、訓練について
	10	遂行機能障害　概論	概論（症状、ADLへの影響）
	11	遂行機能障害　評価・訓練	遂行機能障害を評価する検査法、訓練について
	12	症例検討	グループワーク（脳画像、評価、訓練）
	13	症例検討	グループワーク（脳画像、評価、訓練）
	14	高次脳機能障害まとめ	講義内容の総括、臨床推論、高次脳機能障害における最新トピック
	15	国家試験問題解説	国家試験問題解説
	16		

履修上の留意点
・臨床への活用内容と、国家試験対策を取り込んでいきます。
・専門用語の学習と、それを一般的にも説明できるように心掛けていきましょう。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達障害総論Ⅰ		指導担当者名	金見　美奈子
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	言語発達障害を引き起こす疾患・原因等の大枠を理解する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士のための言語発達障害学　医歯薬出版			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	発達障害とは①	発達障害とは何か。DSM－Ⅳ－TRについて
	2	発達障害とは②	発達障害に気付かれる時期 軽度発達障害について
	3	知的障害とは①	知的活動について、知的障害について
	4	知的障害とは②	ダウン症について、IQについて
	5	知的障害とは③	ダウン症のめざめ
	6	広汎性発達障害とは①	症例、異常感覚について
	7	広汎性発達障害とは②	DSM―Ⅳ－TR　各疾患について
	8	広汎性発達障害とは③	DSM―Ⅳ－TR　各疾患について
	9	学習障害とは①	学習障害について
	10	学習障害とは②	読み書き障害について
	11	特異的言語発達遅滞とは①	特異的言語発達遅滞について
	12	特異的言語発達遅滞とは②	特異的言語発達遅滞について
	13	注意欠陥多動性障害とは	注意欠陥多動性障害のタイプについて
	14	脳性麻痺、重複障害とは	脳性麻痺、重複障害について
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達障害総論Ⅱ		指導担当者名	金見　美奈子
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	小児の評価に必要な検査の実施方法、結果の解釈を学ぶ			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と実技試験を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士のための言語発達障害学　　医歯薬出版			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査①	言語発達遅滞検査の概要
	2	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査②	検査の実施手続き　注意点
	3	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査③	記号形式一指示内容関係①
	4	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査④	記号形式一指示内容関係②
	5	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査⑤	記号形式一指示内容関係③
	6	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査⑥	基礎的プロセス
	7	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査⑦	コミュニケーション態度
	8	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査⑧	質問紙
	9	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査⑨	症状分類
	10	国リハ式S-S法言語発達遅滞検査⑩	症状分類
	11	PVT-R①	PVT-Rの実際と結果の解釈
	12	PVT-R②	PVT-Rの実際と結果の解釈
	13	質問応答関係検査①	質問応答検査の実際と結果の解釈
	14	質問応答関係検査②	質問応答検査の実際と結果の解釈
	15	質問応答関係検査③	質問応答検査の実際と結果の解釈

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達障害総論Ⅱ		指導担当者名	金見　美奈子	
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり			実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年		
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：	
単位数	2単位	週時間数	2時間		
学習到達目標	小児の評価に必要な検査の実施方法、結果の解釈を学ぶ				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と実技試験を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	言語聴覚士のための言語発達障害学　　医歯薬出版				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	遠城寺式乳幼児分析的発達検査①	検査の実際と結果の解釈
	17	遠城寺式乳幼児分析的発達検査②	検査の実際と結果の解釈
	18	津守式乳幼児発達検査	検査の実際と結果の解釈
	19	新版K式発達検査①	検査の実際
	20	新版K式発達検査②	検査の実際
	21	新版K式発達検査③	検査の実際
	22	新版K式発達検査④	結果の解釈
	23	新版K式発達検査⑤	結果の解釈
	24	インリアルアプローチ	基本理念と実際
	25	ポーテージプログラム	ポーテージプログラムの概要と解釈
	26	WISC－Ⅳ①	検査概要
	27	WISC－Ⅳ②	検査の実際と結果の解釈
	28	WISC－Ⅳ③	検査の実際と結果の解釈
	29	WISC－Ⅳ④	検査の実際と結果の解釈
	30	総まとめ	
	31		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達障害Ⅰ		指導担当者名	鏡　昭子
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科　2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	正常発達を理解する。 それをふまえて、知的障害の定義・臨床症状・支援の仕方を理解し、言語評価・指導目標・指導プログラムが立案できるようにする。			
評価方法 評価基準	学習評価は、ペーパーテストに、授業参加姿勢、グループワークにおける予習や発表の状況をもとに行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	言語発達障害学　第2版（医歯薬出版K.K）　　言語発達障害Ⅰ（建帛社）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	講義の進め方　　自己紹介・STになろうとした動機など
	2	言語発達とは	ことばの発達・しくみ・基盤について
	3	0歳児の発達状態	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	4	1歳児の発達状態	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	5	2歳児の発達状態	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	6	3歳児の発達状態	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	7	4歳児の発達状態	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	8	5～6歳児の発達状態	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	9	正常児の言語評価	正常児の動画をみて、評価をする。（グループワーク）
	10	正常児の言語評価	正常児の動画を見て、評価をする。（グループワーク）
	11	発達障害の分類・評価・支援	発達障害の分類・評価の目的と方法・支援の仕組みなど
	12	知的障害とは	グループ発表（事前にまとめて、人数分コピーしておく）
	13	知的障害児の評価・目標・指導	動画を見て、評価・目標・指導計画をまとめる。（グループワーク）
	14	知的障害児の評価・目標・指導	動画を見て、評価・目標・指導計画をまとめる。（グループワーク）
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達障害Ⅱ		指導担当者名	金見　美奈子
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	脳性麻痺の概要（基礎知識）、治療・療育について			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験とレポートにより行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	改訂　言語発達障害Ⅲ　建帛社			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	定義・ガイダンス	CPの定義・分類
	2	運動特徴	CPの運動特徴と正常な運動発達
	3	基礎知識	原因・診断
	4	合併症	知的障害・てんかん・感覚障害など
	5	中間評価	CPの知識
	6	合併症状	合併症状と言語聴覚障害
	7	CPの言語発達	言語面の特徴
	8	情報収集	情報収集の仕方　項目
	9	評価①	臨床的評価と客観的評価
	10	評価②	脳性麻痺の評価1
	11	評価③	嚥下機能の評価
	12	評価④	脳性麻痺の評価2
	13	評価⑤	脳性麻痺の評価3
	14	訓練	訓練について
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	言語発達障害Ⅲ		指導担当者名	金見　美奈子
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	言語の各側面、各障害について知り、特性に合せたプログラムの考え方を学ぶ。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語障害療法シリーズ14　改訂　言語発達障害学Ⅲ（建帛社）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	発達障害	発達障害の確認、発達障害の捉え方
	2	発達障害者支援法	発達障害者支援法の概要と軽度発達障害について
	3	発達障害を捉える枠組み	阻害要因、コミュニケーション障害
	4	発達障害を捉える枠組み	処理過程・サブタイプ
	5	TEACCHプログラム	問題行動に対する対策
	6	症例検討	自閉症のコミュニケーション指導
	7	症例検討	LD　文字学習について
	8	症例検討	LD　文字学習について
	9	AACについて	STに求められる専門性
	10	AACについて	ローテク・ノンテクコミュニケーション
	11	AACについて	ハイテクコミュニケーション
	12	AACについて	コミュニケーションボードの指導について
	13	症例検討	AACについて
	14	症例検討	ADHD
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	音声障害		指導担当者名	寺内　義貴
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	発声・発語の構造・機能の基礎知識の再確認と音声障害の評価・診断・治療の概要を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験とレポートにより行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚療法シリーズ14　改訂　音声障害　（建帛社）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	音声言語医学（1）	声の特徴とその調節
	2	音声言語医学（2）	声の使用と問題
	3	音声言語医学（3）	発声器官の仕組みとはたらき
	4	音声言語医学（4）	発声の生理
	5	音声言語医学（5）	発声の物理
	6	音声言語医学（6）	
	7	音声障害の診断と評価（1）	分類
	8	音声障害の診断と評価（2）	喉頭観察
	9	音声障害の診断と評価（3）	音声の評価・方法
	10	音声障害の治療（1）	原理
	11	音声障害の治療（2）	治療の実際
	12	音声障害の治療（3）	音声外科と薬物療法
	13	無喉頭音声（1）	代用音声のリハ
	14	無喉頭音声（2）	代用音声のリハ
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	器質性構音障害		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	顔面・口腔の発生。器質的な問題（口唇口蓋裂、口腔癌）を理解し、引き起こされる構音障害を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第3版　（共同医書）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	手記・問題点	器質性構音障害とは
	2	口唇の発生、裂の型	発生過程
	3	ビデオ鑑賞	口唇裂について
	4	問題点、口蓋の発生	発生過程
	5	原因、STの仕事	主な原因とSTの関わり
	6	鼻咽空閉鎖機能	正常機能と障害症状
	7	片側口唇裂Ope	種類・方法
	8	両側口唇裂Ope	種類・方法
	9	口蓋裂 Ope	種類・方法
	10	2次的 Ope	種類・方法
	11	2次的 Ope	種類・方法
	12	口腔癌	種類・原因等
	13	口腔癌	種類・原因等
	14	課題（国試問題）	国試問題
	15	解説、まとめ	国試解説、まとめ
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	機能性構音障害		指導担当者名	渡邉　智恵
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	10月～2月	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	機能性構音障害の定義と概要を把握する。 構音と表記方法について学ぶ。 構音障害の評価・治療の内容と流れを理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚療法シリーズ7　改訂　機能性構音障害			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	構音障害、構音発達	構音障害の種類と構音の発達について
	2	構音障害とは	IPA、構音の誤り方
	3	音声表記	50音表、小テスト
	4	音声表記	弁別素性、音表、単語
	5	異常構音	種類・概要
	6	検査（1）	構音検査以外の検査
	7	検査（2）	構音検査概要
	8	検査（3）	構音検査（単語検査・書き取り）
	9	検査（4）	構音検査（ビデオ起こし）
	10	復習	失語と構音障害、種類、母音・子音の産生 音声表記、構音検査以外の検査
	11	訓練（1）	語音聞き取り訓練、音の産生訓練
	12	訓練（2）	音の産生訓練
	13	訓練（3）	訓練までの流れ（訓練適応・目的等）
	14	国試問題	国試問題、解説
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ		指導担当者名	吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	ディサースリアの概要・運動障害・発話特徴を理解する。 検査方法の手順を理解し、実施できる。 検査結果の解釈、問題点の抽出、訓練プログラムの立案ができる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	ディサースリア臨床標準テキスト			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	授業概要	ディサースリアの定義、失語・発語失行との違い
	2	タイプ分類概要	特徴的な運動障害 発話特徴の名称と意味
	3	運動系とその障害	錐体路・下位ニューロン・錐体外路
	4	運動系とその障害	錐体路・下位ニューロン・錐体外路
	5	タイプ分類（1）	痙性ディサースリア・UUMNディサースリア
	6	タイプ分類（2）	弛緩性ディサースリア
	7	タイプ分類（3）	失調性ディサースリア
	8	タイプ分類（4）	運動低下性ディサースリア
	9	タイプ分類（5）	運動過多性ディサースリア
	10	タイプ分類（6）	混合性ディサースリア
	11	評価	評価の流れ
	12	評価	評価の流れ
	13	まとめ（1）	国試問題、解説
	14	まとめ（2）	国試問題、解説
	15	まとめ（3）	国試問題、解説
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ		指導担当者名	長谷川　賢一
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年生	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	6時間	
学習到達目標	地域リハビリテーションについて理解し、障害を診る心構えを持つ。 ディサースリアに関連する脳神経の働きを理解する。 ディサースリアの概要・運動障害・発話特徴を理解する。 検査方法の手順を理解し、応用的に実施できる。 検査結果の解釈、問題点の抽出、訓練プログラムの立案ができる。 臨床現場でよく用いられる訓練技術について演習して方法を理解できる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準ディサースリアテキスト			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	地域包括ケアと言語聴覚士	地域リハビリテーションの概念に基づき、臨床家として基本的なマインドを持てるように方向づける
	2	ディサースリアと脳神経	5，7，9，10，12脳神経の働きと見方を理解する
	3	ディサースリアと脳神経	皮質延髄路とそれに関連する運動障害を理解する
	4	ディサースリアの基礎	鑑別診断、発話症状の理解
	5	ディサースリアの基礎	タイプ分類
	6	ディサースリアの基礎	タイプ分類
	7	評価	AMSD概要
	8	評価	AMSD演習
	9	評価	AMSD演習
	10	評価	AMSD演習
	11	評価	AMSD演習
	12	評価の解釈	解釈から訓練方法の説明
	13	評価の解釈	解釈から訓練方法の説明
	14	訓練	臨床現場でよく用いられる訓練方法演習
	15	訓練	臨床現場でよく用いられる訓練方法演習
	16		

履修上の留意点

・基礎科目（神経・解剖）の理解度によって、若干の時間配分が変更となる可能性あり。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	吃音		指導担当者名	金見　美奈子
実務経験	小児療育施設および介護老人保健施設での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	吃音の基礎知識・検査・訓練について学ぶ			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験とレポートにより行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚療法　臨床マニュアル			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	吃音について	吃音者が抱える問題
	2	吃音について	DSM-Ⅳ-TR、ICD-10定義 吃音についてのいくつかの知見
	3	吃音症状	身体症状を含む吃音症状、進展段階
	4	非流暢性	吃音以外の非流暢性、発達性・獲得性吃音
	5	吃音と臨床の流れ	小児と成人のポイント
	6	情報収集（1）	内容・聴取の仕方
	7	情報収集（2）	幼児・学童・成人
	8	発話特徴	吃音頻度・非流暢性頻度・発話速度
	9	検査	課題検査について
	10	環境調整	幼児期の特徴、環境調整
	11	症例検討	環境調整の例
	12	訓練（1）	遊戯療法について
	13	訓練（2）	流暢促進訓練・吃音軽減訓練
	14	訓練（3）	DAF
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	嚥下障害Ⅰ		指導担当者名	吾妻　真帆
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	摂食嚥下時に行われている運動を理解する。 摂食嚥下障害の障害像、およびそれに起因する困難を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学（医歯薬出版）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	摂食嚥下とは	食べるということ
	2	摂食嚥下障害とは	摂食嚥下障害の概要
	3	摂食嚥下にかかわる器官①	口腔
	4	摂食嚥下にかかわる器官②	鼻腔・咽頭
	5	摂食嚥下にかかわる器官③	喉頭・食道
	6	摂食嚥下にかかわる筋	筋とその働きおよび支配神経
	7	嚥下モデル①	生理モデル・臨床モデル
	8	嚥下モデル②	先行期・準備期・口腔期
	9	嚥下モデル③	咽頭期・食道期
	10	発達と摂食嚥下障害	嚥下運動の獲得
	11	加齢と摂食嚥下障害	加齢に伴う生理的変化
	12	誤嚥	誤嚥の概要
	13	誤嚥の分類①	ログマンの分類
	14	誤嚥の分類②	その他の分類
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	嚥下障害Ⅱ		指導担当者名	吉田　寿晃
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	1. 摂食嚥下障害の基礎知識について説明できる。 2. 摂食嚥下障害の評価法について説明し、評価法の基礎的な手技を実践できる。 3. 摂食嚥下障害の指導・訓練・治療法について、その基礎的な内容を説明でき、かつ評価結果から必要な方法を選択することができる。 4.上記に関わらず、社会人としての適正な言語能力があること、対人関係を構築することができる。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	言語聴覚士のための摂食嚥下障害学（医歯薬出版）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	オリエンテーション、課題提示	配布資料（目標課題30項目）、教科書
	2	課題の実施	配布資料、教科書、演習用動画データの配布
	3	演習：嚥下造影検査所見の読影・解析	・PC（1人1台）を使用する。事前に動画再生ソフトquicktime（無料版）をインストールし、前回配布の動画データを保存しておくこと。　・解析シートの配布
	4	演習：嚥下造影検査所見の読影・解析	・PC（1人1台）を使用する。事前に動画再生ソフトquicktime（無料版）をインストールし、前回配布の動画データを保存しておくこと。　・解析シートの配布
	5	演習：嚥下造影検査所見の読影・解析	・PC（1人1台）を使用する。事前に動画再生ソフトquicktime（無料版）をインストールし、前回配布の動画データを保存しておくこと。　・解析シートの配布
	6	演習：嚥下造影検査所見の読影・解析	・PC（1人1台）を使用する。事前に動画再生ソフトquicktime（無料版）をインストールし、前回配布の動画データを保存しておくこと。　・解析シートの配布
	7	講義：言語聴覚士が単独で行える嚥下の検査	配布資料、教科書
	8	演習：言語聴覚士が単独で行える嚥下の検査の演習	以下に学生１人あたりの数量を示す。飲料水（100cc程度）、舌圧子（1）、ペンライト（2人に1）、ティースプーン（1）、果実ゼリーまたはプリン（1）、聴診器（2人に1）、綿棒（綿球が小さく、柄の長いもの）（1）、ディスポ手袋（4）、シリンジ（10cc×１）、紙コップ（1）、パルスオキシメータ（あれば数台）、トロミ剤（1）
	9	演習：言語聴覚士が単独で行える嚥下の検査の演習	以下に学生１人あたりの数量を示す。飲料水（100cc程度）、舌圧子（1）、ペンライト（2人に1）、ティースプーン（1）、果実ゼリーまたはプリン（1）、聴診器（2人に1）、綿棒（綿球が小さく、柄の長いもの）（1）、ディスポ手袋（4）、シリンジ（10cc×１）、紙コップ（1）、パルスオキシメータ（あれば数台）、トロミ剤（1）
	10	講義：基礎訓練（間接訓練）法 摂食訓練（直接訓練）法、代償法	教科書
	11	講義：歯科補綴的対応、外科的治療、 代替栄養法	教科書
	12	講義：臨床上の留意点（リスク管理、気管切開、口腔・咽頭の衛生など）	教科書
	13	講義のまとめ	配布資料、教科書
	14	質疑応答、補足的講義	配布資料、教科書
	15	課題の最終作成、提出	配布資料、教科書
	16		

履修上の留意点

・摂食嚥下障害は生命に関わる障害であることに留意し、倫理観や人生観とも関係する奥深い領域であることを認識し、真摯な態度で授業に取り組むこと。また社会人としての言語能力を有していること、対人援助職としての他人との信頼関係の構築ができることにも極めて強く期待したい。

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。　・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	嚥下障害Ⅲ		指導担当者名	長谷川　賢一
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科　2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	嚥下スクリーニング検査、VE・VFを理解し、適切な訓練法を選択できるようになる			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	摂食嚥下障害学　（医歯薬出版）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	摂食嚥下障害の原因・症状	神経疾患
	2	摂食嚥下障害の原因・症状	神経疾患
	3	スクリーニング検査①	スクリーニングの意義、RSST
	4	スクリーニング検査②	水飲みテスト、改定水飲みテスト、フードテスト
	5	スクリーニング検査③	頸部聴診法、その他
	6	検査①	嚥下造影①
	7	検査②	嚥下造影②
	8	検査③	嚥下内視鏡検査①
	9	検査④	嚥下内視鏡検査②
	10	評価	食事姿勢・食形態の決め方
	11	訓練①	間接的嚥下訓練①
	12	訓練②	間接的嚥下訓練②
	13	訓練③	直接的嚥下訓練①
	14	訓練④	直接的嚥下訓練②
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚障害総論Ⅰ		指導担当者名	齋藤　順子
実務経験	歯科医師		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	聴覚機能および聴覚障害の概要を学び、聴覚リハビリテーションの基礎知識を身に付ける			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	聴覚のはたらき①	コミュニケーションにおける聴覚機能の役割
	2	聴覚のはたらき②	聴覚障害とは
	3	聴覚の発達①	聴性行動反応
	4	聴覚の発達②	加齢と聴力低下
	5	聴覚障害の影響とライフステージ①	前言語期発症の難聴
	6	聴覚障害の影響とライフステージ②	後言語期発症の難聴
	7	難聴の種類と特徴①	伝音難聴
	8	難聴の種類と特徴②	内耳性難聴
	9	難聴の種類と特徴③	後迷路性難聴・機能性難聴
	10	視覚聴覚二重障害	視覚聴覚二重障害の特徴
	11	聴覚障害を取り巻く状況①	聴覚障害のリハビリテーションの歴史
	12	聴覚障害を取り巻く状況②	聾学校・支援機関
	13	聴覚障害を取り巻く状況③	ろう文化
	14	聴覚障害を取り巻く状況④	言語聴覚士による訓練・援助
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚障害総論Ⅱ		指導担当者名	吉田　寿晃
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	聴覚系の検査・評価の理論および手技を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版（医学書院）、聴覚検査の実際　改訂第4版（南山堂）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	評価の概要	
	2	検査①	検査の種類、純音聴力検査①
	3	検査②	純音聴力検査②
	4	検査③	純音聴力検査③
	5	検査④	自記オージオメトリー①
	6	検査⑤	自記オージオメトリー②
	7	検査⑥	語音聴力検査①
	8	検査⑦	語音聴力検査②
	9	小テスト	ペーパーテスト
	10	検査⑧	インピーダンスオージオメトリー
	11	検査⑨	耳音響放射、聴性誘発反応
	12	検査⑩	乳幼児聴力検査①
	13	検査⑪	乳幼児聴力検査②、選別聴力検査①
	14	検査⑫	選別聴力検査②
	15	まとめ	
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚障害Ⅰ		指導担当者名	北山　泰一
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科　2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	小児の聴覚障害の医学的側面について理解できる。 言語発達に影響が生じることを理解し、早期発見・早期療育の必要性を説明できる。 乳幼児の聴覚検査について理解し、実施して記録することができる。 聴覚補償手段（補聴器、人工内耳等）の必要性が説明でき、小児期の特徴に配慮した初期調整ができる。 言語習得支援の基礎的知識とスキルを習得し、説明することができる。 視覚聴覚二重障害の発症時期と障害像について説明できる。			
評価方法 評価基準	授業記録（配布資料、学習記録）がわかりやすくファイルされ、自筆の書き込みやメモが確認できること。レポートは自分のことばで、論旨を明確に記述されていること。授業や共同作業への協調、質問や発表の取組みがみられること。これらに期末テストの結果も踏まえて学習評価を行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	小児聴覚障害とは	きこえと言語発達、STの役割　iPadアプリの利用
	2	小児聴覚障害の病理	ハイリスク要因、原因、発症時期
	3	小児聴覚障害の病理	症候性難聴、遺伝性難聴
	4	難聴と言語機能	日本語の音素と聴野、構音獲得への影響
	5	難聴と言語機能	言語発達への影響、早期発見・早期療育の必要性
	6	乳幼児聴覚検査と評価 ①聴覚発達②選別検査と精密検査③聴覚診断	聴覚機能の発達と聴覚診断
	7	乳幼児聴覚検査と評価 ①聴覚発達②選別検査と精密検査③聴覚診断	選別検査（新生児聴覚スクリーニング検査）
	8	乳幼児聴覚検査と評価 ①聴覚発達②選別検査と精密検査③聴覚診断	乳幼児聴力検査①聴性行動の観察　グループ演習
	9	乳幼児聴覚検査と評価 ①聴覚発達②選別検査と精密検査③聴覚診断	②条件づけによる聴力検査　グループ演習
	10	小児聴覚障害の聴覚補償①コミュニケーションモード②小児の補聴器適合③小児人工内耳	聴覚補償機器と読話
	11	小児聴覚障害の聴覚補償①コミュニケーションモード②小児の補聴器適合③小児人工内耳	乳幼児の補聴器と人工内耳、適応基準
	12	小児聴覚障害の聴覚補償①コミュニケーションモード②小児の補聴器適合③小児人工内耳	小児の補聴器適合の実際
	13	小児聴覚障害の聴覚補償①コミュニケーションモード②小児の補聴器適合③小児人工内耳	小児人工内耳適合の実際
	14	聴覚障害児の療育指導	情報収集、言語検査と評価、支援プログラム
	15	視覚聴覚二重障害、諸制度	発症時期と障害像、支援方法、諸制度
	16		

履修上の留意点

・分からないことや分かりにくいことは、積極的に質問すること。
・iPadを使うときは、事前に予告する。グループ活動には主体的に参加すること。
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚障害II		指導担当者名	北山　泰一
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	成人期に発症する聴覚障害の原因疾患を理解する。 中途失聴者への接し方、援助方法を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　聴覚障害学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	概要	後天性聴覚障害とは
	2	原因疾患	後天性聴覚障害の原因となる疾患①
	3	原因疾患	後天性聴覚障害の原因となる疾患②
	4	評価	聴覚検査
	5	評価	聴取能力の評価
	6	評価	コミュニケーション能力の評価
	7	指導・援助	聴能訓練
	8	指導・援助	コミュニケーション指導①　様々なコミュニケーション手段
	9	指導・援助	コミュニケーション指導②　読話
	10	指導・援助	コミュニケーション指導③　コミュニケーションストラテジー
	11	指導・援助	手話・指文字
	12	指導・援助	視覚聴覚二重障害者への指導
	13	指導・援助	要約筆記①
	14	指導・援助	要約筆記②
	15	指導・援助	老人性難聴者への対応
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	聴覚障害III		指導担当者名	北山泰一
実務経験	医療機関での言語聴覚士業務従事経験あり		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科2学年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	補聴器・人工内耳の構造を理解する。 補聴器・人工内耳の調整理論を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	標準言語聴覚障害学　聴覚障害学（医学書院）			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	補聴器	補聴器の目的・構造
	2	補聴器	補聴器の形状による特徴
	3	補聴器	デジタル補聴器とアナログ補聴器の違い
	4	補聴器	補聴器特性検査
	5	補聴器	フィッティング①　理論、方法
	6	補聴器	フィッティング②　リニア増幅とノンリニア増幅
	7	補聴器	フィッティング③　イヤモールド、ベント、ダンパー、オープンフィッティング
	8	補聴器	補聴器適合検査の指針（2010）
	9	聴覚保障援助システム	無線通信システム・磁気ループシステムの特徴
	10	人工内耳	人工内耳の目的・構造
	11	人工内耳	人工内耳適応基準
	12	人工内耳	マッピング①　電気的パラメータと音の知覚
	13	人工内耳	マッピング②　各レベルと調整
	14	人工内耳	マッピング③　補聴効果の評価
	15	人工内耳	その他の人工聴覚器
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	臨床実習Ⅰ		指導担当者名	外部言語聴覚士＋内部教員
実務経験	言語聴覚士業務従事者		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科3年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
単位数	4単位	週時間数	40時間	
学習到達目標	実習対策で学んだ知識を活かし、外部施設にて言語聴覚療法において必要な検査手技および評価が出来るようになる。また、検査結果を考察したうえで訓練プログラムが立案できるようになる。			
評価方法 評価基準	評価は外部指導者の評価（8割）、学内教員による症例報告会の点数（2割）にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	全テキスト参照のこと。			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	実習オリエンテーション（ガイダンス）への参加	
		臨床場面の見学を通し、ディリーノートの作成と提出を行う。	
	～	担当症例の評価を実施し、検査結果のまとめ、考察、訓練プログラムの立案を行う。	
		院内ケースカンファレンスへの参加	
		症例報告書の作成、レジュメの作成	
	200	院内での発表	

履修上の留意点

・実習の5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	臨床実習Ⅱ		指導担当者名	外部言語聴覚士＋内部教員
実務経験	言語聴覚士業務従事者		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科3年生	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
単位数	8単位	週時間数	40時間	
学習到達目標	臨床実習Ⅰで身に付けた評価スキルを存分に活かし、訓練プログラムの立案を行い、実際の訓練を経験する。また、再評価により自身で立てた訓練プログラムの信憑性を考察できる力を身に付ける。			
評価方法 評価基準	評価は外部指導者の評価（8割）、学内教員による症例報告会の点数（2割）にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	全テキスト参照のこと。			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	実習オリエンテーション（ガイダンス）への参加	
		臨床場面の見学を通し、ディリーノートの作成と提出を行う。	
		担当症例の評価を実施し、検査結果のまとめ、考察、訓練プログラムの立案を行う。	
	～	院内ケースカンファレンスへの参加	
		自身の立てた訓練プロぎラムに従い、担当症例の評訓練を実施し、再評価を行う。 再評価の結果を考察する。	
		症例報告書の作成、レジュメの作成	
	320	院内での発表	

履修上の留意点

・実習の5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	一般臨床医学		指導担当者名	高橋利行・千葉智子
実務経験	救急救命士（高橋）・看護師（千葉）		実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	心肺蘇生・応急手当法を習得する 看護師の役割について理解する 看護行為に共通する援助技術について理解する 日常生活援助技術を理解する			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）			
使用教材	応急手当講習テキスト　東京法令出版　／　基礎看護学　メディカ出版			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	救急法	CPR・救急救命とは
	2	救急法	胸骨圧迫・人工呼吸
	3	救急法	成人CPRの流れ　AEDの使用
	4	救急法	乳児のCPRの流れ・院内救命措置
	5	救急法	乳児のCPR　その他の応急手当て
	6	救急法	体位管理　三角布の使用法
	7	救急法	三角布の使用法　熱傷対応
	8	救急法	徒手搬送　応急手当
	9	看護学概論	安全を守る技術
	10	バイタルサイン・実測・聴取	フィジカルアセスメントの基本原則　5つの基本技術
	11	血圧測定	実技
	12	経管栄養	
	13	感染について（防護・経路）	
	14	体位交換、車イス、杖	実技
	15	吸引、排痰ケア	実技

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	手話		指導担当者名	山中沙織 ・ 滝田真紀	
実務経験	手話通訳指導者			実務経験：	無
開講時期	前期	対象学科学年	言語聴覚士科1年		
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：	
単位数	1単位	週時間数	2時間		
学習到達目標	①聴覚障害者とのコミュニケーションについて学ぶ ②手話表現技術を取得し、会話ができる初歩的な手話を学ぶ ③聴覚障害者の歴史や文化を学ぶ				
評価方法 評価基準	◆筆記試験…読み取り（指文字・数字・単語・短文）、筆記（聴覚障害者とのコミュニケーション手段について） ◆実技試験…自己紹介、対面面接（会話） 評価は上記にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	講義「コミュニケーションについて」 第1講座　伝えあってみましょう	・DVD鑑賞「私の大切な家族」（テレビ・DVDデッキ） ・講義「聴覚障害者とのコミュニケーションについて」 ・手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	2	第2講座　名前を紹介しましょう	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	3	第3講座　家族を紹介しましょう 講義「日常生活用具について」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	4	第4講座　数字を覚えましょう	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	5	第5講座　趣味について話しましょう 講義「ろう者の趣味について」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	6	第6講座　仕事について話しましょう 講義「ろう者の仕事について」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	7	第7講座　住所を紹介しましょう	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	8	第8講座　まとめ（自己紹介）	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	9	第9講座　時間について話しましょう	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	10	第10講座　会話してみましょう① ～旅行について～	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	11	第11講座　会話してみましょう② ～医療について～ 講義「ろう者が病院で困ること」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	12	第12講座　会話してみましょう③ ～学校について～ 講義「聾学校について」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	13	第13講座　会話してみましょう④ ～職場について～ 講義「ろう者が働く職場について」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	14	第14講座　会話してみましょう⑤ ～災害について～ 講義「災害が起きたとき困ること」	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	15	第15講座　まとめ（選択学習）	手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
単位数	16単位	週時間数	20時間
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。		
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）		
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社		
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	106	聴覚障害学④	成人聴覚障害学
	107	聴覚障害学⑤	成人聴覚障害学
	108	聴覚障害学⑥	成人聴覚障害学
	109	聴覚障害学⑦	成人聴覚障害学
	110	聴覚障害学⑧	補聴器・人工内耳
	111	聴覚障害学⑨	補聴器・人工内耳
	112	聴覚障害学⑩	視覚聴覚二重障害
	113	社会福祉・教育①	社会保障制度
	114	社会福祉・教育②	社会保障制度
	115	社会福祉・教育③	リハビリテーション総論
	116	社会福祉・教育④	医療福祉教育・関係法規
	117	第6回模擬試験	オリジナル問題
	118	第6回模擬試験	オリジナル問題
	119	第6回模擬試験	オリジナル問題
	120	第6回模擬試験	オリジナル問題

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員	
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
単位数	16単位	週時間数	20時間		
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。				
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	基礎医学①	解剖・生理学
	2	基礎医学②	解剖・生理学
	3	基礎医学③	解剖・生理学
	4	基礎医学④	解剖・生理学
	5	基礎医学⑤	解剖・生理学
	6	基礎医学⑥	病理学
	7	基礎医学⑦	病理学
	8	基礎医学⑧	病理学
	9	言語聴覚障害総論①	言語聴覚障害総論
	10	言語聴覚障害総論②	言語聴覚障害総論
	11	言語聴覚障害総論③	言語聴覚障害診断学
	12	言語聴覚障害総論④	言語聴覚障害診断学
	13	臨床医学①	内科学
	14	臨床医学②	内科学
	15	臨床医学③	小児科学
	16		

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年	
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
単位数	16単位	週時間数	20時間	
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。			
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	臨床医学④	小児科
	17	臨床医学⑤	リハビリテーション医学
	18	臨床医学⑥	耳鼻咽喉科
	19	臨床医学⑦	耳鼻咽喉科
	20	臨床医学⑧	臨床神経学
	21	臨床医学⑨	臨床神経学
	22	臨床医学⑩	形成外科
	23	第1回模擬試験	模擬試験（過去問題ベース）
	24	第1回模擬試験	模擬試験（過去問題ベース）
	25	第1回模擬試験	模擬試験（過去問題ベース）
	26	第1回模擬試験	模擬試験（過去問題ベース）
	27	失語・高次脳機能障害①	失語症
	28	失語・高次脳機能障害②	失語症
	29	失語・高次脳機能障害③	失語症
	30	失語・高次脳機能障害④	失語症

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員	
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：	
単位数	16単位	週時間数	20時間		
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。				
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	31	失語・高次脳機能障害⑤	高次脳機能障害
	32	失語・高次脳機能障害⑥	高次脳機能障害
	33	失語・高次脳機能障害⑦	高次脳機能障害
	34	失語・高次脳機能障害⑧	高次脳機能障害
	35	臨床歯科医学①	臨床歯科医学
	36	臨床歯科医学②	臨床歯科医学
	37	臨床歯科医学③	臨床歯科医学
	38	臨床歯科医学④	口腔外科学
	39	臨床歯科医学⑤	口腔外科学
	40	言語発達障害学①	総論
	41	言語発達障害学②	総論
	42	言語発達障害学③	総論
	43	言語発達障害学④	総論
	44	言語発達障害学⑤	評価
	45	言語発達障害学⑥	評価

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員	
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：	
単位数	16単位	週時間数	20時間		
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。				
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	46	言語発達障害学⑦	評価
	47	言語発達障害学⑧	指導・訓練
	48	言語発達障害学⑨	指導・訓練
	49	言語発達障害学⑩	指導・訓練
	50	第2回模擬試験	模擬試験（過去問ベース）
	51	第2回模擬試験	模擬試験（過去問ベース）
	52	第2回模擬試験	模擬試験（過去問ベース）
	53	第2回模擬試験	模擬試験（過去問ベース）
	54	心理学①	学習・認知心理学
	55	心理学②	学習・認知心理学
	56	心理学③	心理測定法
	57	心理学④	心理測定法
	58	心理学⑤	心理測定法
	59	心理学⑥	臨床心理学
	60	心理学⑦	臨床心理学

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員	
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：	
単位数	16単位	週時間数	20時間		
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。				
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	61	心理学⑧	生涯発達心理学
	62	心理学⑨	生涯発達心理学
	63	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	64	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	65	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	66	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	67	発声・発語・嚥下障害学①	音声障害
	68	発声・発語・嚥下障害学②	音声障害
	69	発声・発語・嚥下障害学③	音声障害
	70	発声・発語・嚥下障害学④	構音障害（機能性構音障害）
	71	発声・発語・嚥下障害学⑤	構音障害（機能性構音障害）
	72	発声・発語・嚥下障害学⑥	構音障害（器質性構音障害）
	73	発声・発語・嚥下障害学⑦	構音障害（器質性構音障害）
	74	発声・発語・嚥下障害学⑧	構音障害（運動障害性構音障害）
	75	発声・発語・嚥下障害学⑨	構音障害（運動障害性構音障害）

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）		実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年	
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
単位数	16単位	週時間数	20時間	
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。			
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）			
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社			
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	76	音声・言語学①	音声学
	77	音声・言語学②	音声学
	78	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	79	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	80	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	81	第3回模擬試験	模擬試験（過去問題＋オリジナル問題）
	82	音声・言語学③	音響学
	83	音声・言語学④	音響学
	84	音声・言語学⑤	聴覚心理学
	85	音声・言語学⑥	聴覚心理学
	86	発声・発語・嚥下障害学①	嚥下障害学
	87	発声・発語・嚥下障害学②	嚥下障害学
	88	発声・発語・嚥下障害学③	嚥下障害学
	89	発声・発語・嚥下障害学④	嚥下障害学
	90	発声・発語・嚥下障害学⑤	嚥下障害学

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	国家試験対策		指導担当者名	言語聴覚士科教員	
実務経験	言語聴覚士（金見・吉田・寺内・吾妻）・歯科医師（齋藤）			実務経験：	無
開講時期	後期	対象学科学年	言語聴覚士科3年		
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：	
単位数	16単位	週時間数	20時間		
学習到達目標	第22回言語聴覚士国家試験合格に向けて、知識を付ける。				
評価方法 評価基準	評価は6回の模擬試験結果にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A，・高い程度に達成しているもの…B，・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D（不合格）				
使用教材	「言語聴覚士テキスト」医学書院 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説」大楊社				
授業外学習の方法	担当教員の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	91	発声・発語・嚥下障害学⑥	吃音
	92	発声・発語・嚥下障害学⑦	吃音
	93	音声・言語学①	聴覚心理学
	94	音声・言語学②	聴覚心理学
	95	音声・言語学③	言語学
	96	音声・言語学④	言語学
	97	音声・言語学⑤	言語発達学
	98	音声・言語学⑥	言語発達学
	99	第5回模擬試験	オリジナル問題
	100	第5回模擬試験	オリジナル問題
	101	第5回模擬試験	オリジナル問題
	102	第5回模擬試験	オリジナル問題
	103	聴覚障害学①	小児聴覚障害学
	104	聴覚障害学②	小児聴覚障害学
	105	聴覚障害学③	小児聴覚障害学

履修上の留意点

・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。